

南窓

No. 59



南山^中学校男子部生徒自治会
高等

「南窓」五十九号 目次

高等学校の部

生徒自治会活動報告

生徒自治会会長	横山 大河 (高二E)	一
生徒自治会副会長	山本 晶 (高二D)	二
生徒自治会書記	渡邊 諒太郎 (高二D)	三
生徒自治会書記兼会計	水谷 仁 (高二D)	四
生徒自治会庶務	澤田 光士郎 (高二D)	五
風紀厚生委員長	井上 蓮太郎 (高二B)	六
文化委員長	奥村 元浩 (高二E)	六

高校文化委員会レポート

ベスト	奥村 元浩 (高二E)	八
感染症とフェイクニュース	寺本 爽汰 (高二A)	一

中学校の部

生徒自治会活動報告

生徒自治会会長	十時 良輔 (中三A)	三
生徒自治会副会長	奥村 慎太郎 (中三D)	四
生徒自治会書記	城寶 優希 (中三A)	四
生徒自治会書記	須田 涼太郎 (中三B)	五
生徒自治会庶務	金子 纏 (中三A)	六
風紀厚生委員長	丹羽 孝太 (中三D)	七
文化委員長	吉野 千雲 (中三C)	八

中学文化委員会新聞

Winter		一九
Spring		二〇

文化祭実行員会

文化祭実行委員長	加藤 大和 (高二B)	二一
文化祭副実行委員長	小野 隼太郎 (高二D)	二二
広報パートリーダー	大崎 詠介 (高二C)	二三
動画・生配信テロップ制作担当	鬼頭 巧 (高二D)	二四

クラス企画

S1C	江本 晃 (高一C)	二五
S1B	大前 蕉真 (高一B)	二六
S1A	青山 晴彦 (高一A)	二七
S2E	福島 康介 (高二E)	二八
J3E	白鳥 晃平 (中三E)	二九
S2A	針山 優至 (高二A)	三〇
S2B	片岡 慶 (高二B)	三一
S2C	瀬寄 悠真 (高二C)	三二
	河合 建哉 (高二C)	三三

S 1 D 青山 太河 (高一D) 三三

J 3 B 駒田 俊 (高三) 三三

J 3 D 伊藤 実樹 (中三B) 三四

J 2 C 高田 晃生 (三四) 三四

J 3 D 松野 鷹正 (中三D) 三五

J 2 C 塩野谷 日向 (中二C) 三五

部活動企画

アメリカンフットボール部 橋本 昂大 (高二C) 三七

奇術部 仙波 泰輝 (高二D) 三七

理科部地質班 水口 竜臣 (高二C) 三七

ブラスパンド部 加納 久嗣 (高二D) 三八

写真部 山口 晃生 (高二A) 三九

アマチュア無線同好会 河口 航毅 (高二B) 四〇

英語部 中村 和音 (高二D) 四一

演劇同好会 駒田 俊 (高一D) 四二

美術同好会 大岡 竜也 (高一E) 四三

理科部生物班 犬飼 明 (高一C) 四四

理科部天文班 江崎 祐治 (高一B) 四四

歴史研究同好会 児玉 康佑 (高一B) 四五

有志企画

南山弦楽合奏団 水口 竜臣 (高二C) 四八

高校生徒会執行部 横山 大河 (高二E) 四九

カービープレイヤーズ 尹 燦禰 (高二E) 五〇

南山和太鼓衆 松原 大知 (高二D) 五一

Dreamer 山口 史温 (高一A) 五二

愛知県高校生フェス 櫻川 結基 (高二A) 五三

ティバル南男学内 Hydrogen (ハイドロゲン) 松本 健杜 (高二B) 五四

科学グループ 勅使河原大志 (高二E) 五四

K.R. 南 佳吾 (高一A) 五五

syake シナ 萩原 憲汰 (中二C) 五六

河井 順 (中二B) 五六

バンド企画

meerkats 野々部 道樹 (高二A) 五七

自由投稿

続・英字新聞の見出しを味読する

長久保 礼一 六五

表紙

高一D 近藤 匠

高等学校の部

生徒自治会活動報告

「生徒会って何するの?」とは言わせない!

生徒自治会会長 高二E 横山 大河

こんにちは。二〇二〇年度生徒会長の横山大河です。前例のない一年間の生徒会活動を終えて毎日の生活に余裕が出てきた今となっては、なんだか生徒会活動をしてきた日々が懐かしく感じます。僕は文化祭実行委員や陸上部部長なども兼任していたので昨年度は本当に忙しくて大変でした。朝も昼も夜も空き時間には生徒会の活動をしていたような気がします。なので結果を出すことができてよかったです。

五つの選挙公約すべてに取り掛かることができましたというのが、僕たちの快挙の一つだと思っています。六月の末の選挙から三月までの長い任期ですが、休みやテストがあるので議会の数は少ないです。その中で執行部会議をほぼ毎日開き、二つ以上の議題を同時進行で進めてきました。本当に執行部のみんなには感謝しています。特

に副会長の晶君には議会の質疑応答で何度も助けられました。

さてここからは僕が大切だと感じたことを話したいと思います。公約を実現する上で重要なことはデータを取ることです。ただ、生徒会として一番大切なことは情報を「伝える」ことです。

昨年度、生徒会長になってからも、タイトルのように「生徒会って何やるの?」という声をよく聞きました。生徒会の本体は生徒「全員」です。本体である生徒が生徒会のことをよく知らないというのは非常に問題です。それを解消するために、生徒に「伝える」活動として生徒会通信を発行しました。もちろん結果を残すことが生徒会の活動を知ってもらうのに一番効果的です。

また、次の世代に「伝える」活動も大切です。今回初めて執行部報告書を作成しました。要望書などの資料や執行部会議のメモも綴じると、なんと約一三〇枚になりました。一任期の生徒会でできることはとても少ないですが、次の世代に引き継いでいくことで学校を少しずつよくしていくことができます。

生徒会は影に埋もれがちな組織ですが、学校で一番大切な組織であることは間違いありません。みなさんも生徒会長や議員に積極的にチャレンジしてみてください!

一年間ありがとうございました。

校則改訂とその裏側

生徒自治会副会長 高二D 山 本 晶

皆さんこんにちは前年度生徒会副会長の山本です。今年の生徒会の活動について報告したいと思います。

今年度の生徒会の活動はコロナの影響により、6月からという例外的なものだった。しかし公約を考える段階では逆に今年は一年間の任期があるので、普段では時間がかかり取り組むことが困難であることにも挑戦出来る良い機会だと考えた。そこで僕たちは皆さんも知っているだろう半ズボンの公約に取り組むことを決意した。そして実際に活動が始まり、半ズボンの着用の許可を学校側に要請するというのは簡単にいくことではないと思い、まずは半ズボンの着用率を調べて導入することのメリットを考えた。ここで南山生の服装の調査を行ったことが公約実現となったのだがこのように朝から活動を行うことにとってもやりがいを感じた。

そして一年を通して自分たちが初めに掲げた公約の全てにおいて取り組むことができただけでなく、先生や先輩方の要望に答えるべく活動を行うことができた。

そして任期が終わろうとしていた2月下旬、例年の生

徒会の課題は一年の活動を南山生に十分に伝えられていない点にあると気が付いた。そこで議員そして執行部のメンバーで考えた結果、報告書を作成してそれを書類として残すことにした。これが来年度以降も継続されていけば南山の生徒会はより学校のために活動しやすくなり、生徒との連携もできるとばくは確信している。この場を借りて来年度の生徒会にもお願いしたい。是非とも継続してください！！

このようにして1年間全力で生徒会活動に取り組んできたわけだが、副会長として自分ができる最大限の責務を果たすことができたのではないかと思う。

そして自分でこの公約を考えたのもあるが、高3も半ズボンで登校出来ることを誰よりも嬉しく思っている。

生徒会の活動を通して本当に多くのものを得ることができたと思う。

最後にはなりますが、一年間支えてくださった皆様本当に有難う御座いました。

書記活動報告

生徒自治会書記 高二D 渡 邊 諒太郎

この度生徒会書記を務めさせていただいた渡邊諒太郎です。今年度は、新型コロナウイルスの影響で生徒会活動は六月に始まり、三月に終わるという任期が一年間の異例の年でした。そんな中での生徒会としての具体的な活動内容については他の人が書いてくれると思うので、ここでは僕のことについて書きたいと思います。

そもそも僕は、生徒会はもちろん委員会にすら参加したことがなく、生徒会とは無縁だと思っていました。ですが六月の選挙で横山君と山本君が当選し、以前から彼らと仲良くしていたため、それを機に生徒会が身近に感じられ、二人に自分も参加させて欲しいとお願いしました。そんなこんなで書記として生徒会のメンバーになりました。僕を受け入れてくれた二人には感謝しています。

今年度は例年の生徒会長が公約として掲げていることの多かった夏季の半ズボン許可を実現させました。この公約の実現にあたっては何ヶ月間にも及ぶ執行部での話し合いや調査を要しました。半ズボンに限らず、公約を実現するにはそれを行うメリットやデメリット、必要な

準備など物事を多面的に考える力が必要とされます。このような力は今までのままの僕の生活では身につけることができなかったと思います。一年間の任期で多くの公約に取り組むことができ、多くの経験をし、そのような面ではコロナ禍の年に生徒会に参加できたことは運が良かったと感じています。

今年一年を通して得たこの力は、学校生活で言えば課題や学校行事、また大袈裟に言えば今後の人生において大いに役立つと確信しています。

最後に、会長、副会長、執行部のメンバー、一年間本当にありがとうございました。また、伊藤先生をはじめとする生徒会に協力してくださった先生方、議員の皆さんやアンケートに協力してくれた全校生徒の皆さんにも感謝したいと思います。ありがとうございました。

人に納得してもらうためには

生徒自治会書記兼会計 高二D 水谷 仁

今年はコロナの影響で4月から6月の初めまで休校が続いたため例年とは違い通年で生徒会活動を行いました。通年だったおかげで様々な公約に取り掛かることができ、今まで生徒会の方々が成し遂げられなかった半ズボンの許可についての公約を実現させることが出来ました。実現に至るまでアンケートを取ったり、校門で服装の調査をしたりしてどうしたら先生方に半ズボンの必要性を伝えることができるかを考えるといういい経験になりました。人に何かをお願いする時や説得させる時にどうしたら納得してもらえるかを考えて行動することとはとても大事だと思います。相手が心配していることなどを予測しそれに対して先に調査などを行い、説明する。こういうことは将来必ず必要になってくることだと思っのでこの生徒会を通して経験できてとても良かったと思います。これから先の生徒会の人達にもこのような経験をしたいし、円滑に仕事を進められるように、生徒会執行部活動報告書を作りました。僕達が作った報告書を参考にして生徒会をより良いものにしてほしい

です。これで僕の生徒会活動は終わりましたが、この経験を活かしこれから先も頑張っていきたいと思います。1年間ありがとうございました。

庶務活動報告書

生徒自治会庶務 高二D 澤田 光士郎

推薦責任者のスピーチから僕の生徒会LIFEは始まりました。

副会長である山本晶に推薦責任者のスピーチを頼まれ、そういうことは嫌いじゃなかった、ので、スピーチ内容を考えました。そして見事当選。そうして、いきなり生徒会に入る事になりました。

今年はコロナのおかげでと言うべきかわかりませんが、生徒会の任期が1年まるまるあり色々なことをやりました。

中でも1番僕らの中で重要視していたのは【半ズボンの使用を認める】という公約で、今まで27年間服装に關して、改定はなかったもので、相当難しいのではないかと僕は考えていました。

僕らはやれることを全部やりました。9月の朝に半ズボンを履いてる人や半ズボンの柄の校則違反者などの数を数え、そのデータをグラフにし、これを武器に要望書を提出しました。その結果、公約が実現しました。半ズボンの使用の公約は無理だともっていましたが、成し遂

げることができました。

自分の好きな言葉、『出来ると思えばできるできないと思えばできないこれは絶対的な法則である』つまり、自分を信じ続ける、結局何を成し遂げるにも自分を信じ抜くやつが強いと僕はおもいます。精神論になるかもしれないですが：

自分を信じ続け、行動することは簡単では無いですが、壁もたくさんありますが、そんな時に諦めるのかorやり続けるのかそれが大事だと思います。

話がだいぶそれてしまいましたが、もし南窓を読んでいる南山生（僕は書くまで読んだことなかったですが、）がいたら、生徒会を通して僕が大切だと思ったことは、本当に叶えたいことがあるなら、是非できると思い続けてみてください！！

風紀厚生委員、やらないか？

風紀厚生委員長 高二B 井上 蓮太郎

今年の風紀厚生委員はコロナ禍ということもあり、朝に手洗いの呼びかけをした。これにより朝の呼びかけをした日は手を洗っていなかった人がだいぶ減った。呼びかけのほかにも下駄箱の掃除やけかきの設置も行った。風紀の仕事は地味でやったとしてもやらなかった場合が見えないので行うことだけではやりがいを感じにくいだろう。けれど行うことを話し合うとき、南山の中でどこを改善したいかを考えて意見を出し合うことを含めればとてもやりがいがあるだろう。風紀は多分人気じゃないので軽く南山を変えることができるのは風紀厚生委員だと思う。みんながそれに気づいていない今のうちに風紀厚生委員をやらないか？

高校文化委員会活動報告

文化委員長 高二E 奥村 元浩

2020年度高校文化委員長を務めさせていただきました奥村です。今年はコロナウィルス（国際正式名称：COVID-19）の影響で通年で委員長職を務めました。通年でやっているなら例年よりも多くの活動ができそうなものですが、コロナウィルス（国際正式名称：COVID-19）の影響が大きくなかなか思うように活動ができませんでした。文化祭との兼ね合いもありましたし・・・いや正直に言う今年は全然委員長が働いてなかったような気がします。毎年行われているアンケートも今思うとなぜ実施しなかったのかと思えてなりません。去年までの文化委員長はみんな真面目に活動していた印象があったのでいざ振り返ってみるともう少しなかでできたのではないかと思えてしまい、なんとも悔しい限りです。今年の文化委員会は委員のみんなが優秀だったおかげで成り立ったようなものです。まじ感謝です。

さて今年の活動ですが、会議では様々な案が出されたのですがコロナ禍ということもあり、諦めざるを得ない

ものも多くありました。その中で長久保先生の「イギリス英語講座」と文化祭でのレポートの発表を行いました。毎年何らかの形で行われる長久保先生の講座ですが、今年は文化委員からの熱い要望もあり、普段あまり触れることのないイギリス英語を教えてもらおうということになりました。

文化祭でのレポートはテーマを「感染症」に決めてそれについてのレポートを発表しました。今年はこれが一番大変だった気がします（笑）。

他にもプログラミング講座などの予定もありましたが、コロナ：…じゃなくて自分の力不足で開催まで持つてできませんでした。申し訳ないです。

コロナウイルス（国際正式名称：COVID-19）がいつまで続くかわかりませんが次の文化委員の人達にはぜひとも僕の後を追わないようにしてもらいたいです。お前何目線だよと言われそうですけど。。。

（嫌だけど）もう高3になってしまいます。委員会にもう関わらないと考えると寂しいですが、後輩には頑張つてより良い文化委員を作ってもらいたいです。全然働かない僕の代わりに文化委員を支えてくれた委員のみんなと顧問の船井先生にはほんとに頭が上がりません。一年間ありがとうございました。

高校文化委員会レポート

ペスト

高二E 奥村元浩

1. 始めに

科学万能の21世紀。人類はコロナウイルスの脅威に脅かされていた！人々は外出を恐れ、経済は傾き、世はまさに混沌を極めている。この人類史に残る大事件、果たして乗り切ることができるのか・・・いや、乗り切らねばならないのだが。では人類はこのような危機にどのような態度でもって臨まなければならないのか。人々はその答えを求めるべくとある本を手にとった。それこそかの大作家カミュの『ペスト』である。このレポートではこのカミュの『ペスト』という作品を紹介すると共に、ペストの歴史について語っていく。

2. カミュ『ペスト』

『ペスト』がどのような作品であるかを説明する前にアルベール・カミュという作家を知って貰う必要がある。そもそもカミュというのは優秀な小説家である以前に優秀な実存主義哲学者でもある。カミュの説明に欠かせな

い言葉に『不条理』というものがある。不条理というのはいうなれば「当人にとって都合だ」というような状況のことである。小説の世界においてはしばしばこのような不条理の設定というものが用いられるが、この不条理という概念を哲学から小説の世界へと昇華させた人こそカミュなのである。

そんな不条理作家カミュが書いた『ペスト』という小説も例に漏れず「不条理」が根底にある。この作品における不条理とは「街の人々を襲うペストという流行病」のことである。この作品ではこのどうしようもない不条理に立ち向かう市民の姿を描いている。

物語の舞台はアルジェリアの港町オラン。作品上では「フランスの位置県庁所在地以上の何者でもないみすばらしい街」と書かれている。ある日この街に住む医師のリウーが一匹の死んだネズミを発見する。最初は何でも無いと思われていたが、このネズミの死骸が増えるのと同時に高熱にうなされ死んでいく人々も増えていく。リウーはこれがペストであることに気づくが、これを発表したことによりオランはパニックに陥ってしまう。やがてオランは外部と完全に遮断され、物資は届かず物価は高騰し、人々は心身ともに追い込まれていく・・・。

作品のあらすじを全部書いてしまうと壮大なネタバレ

になってしまっているので気になった方はぜひとも読んでいただきたい。

さてウイルスに侵された市民の生活を描いたこの作品だが、本屋によってみると大量に山積みされている姿を確認できる。なんと70年以上前のこの小説がベストセラーになっているというのだ。理由はもちろんコロナウイルスの爆発的感染によるものである。コロナの脅威が広がる今、今後の世界の動向を『ペスト』の中で描かれた世界から学ぼうと考えたのであろう。もしくは自粛中暇だったのであろう。

しかしながらこのペストという作品は実際のペストの流行を書いたものではなく、あくまでフィクションであり、実際にこの時代にペストが再流行したわけではない。

3. 実際の「ペスト」

ペストと聞くと多くの人は14世紀のヨーロッパでの大流行を思い浮かべるだろう。だが最近の細菌の研究によってペストが中国雲南省のあたりが起源であるとする説が濃厚になっている。中国でペストが発生した当時はシルクロードでの隊商貿易の全盛期でありこの荷物の中に紛れていたネズミが西アジア、ヨーロッパにペストをもたらしたと思われる。

こうしてヨーロッパに持ち込まれたペストが最初に大規模な感染。すなわちパンデミックを起こしたのは東ローマ帝国（ビザンツ帝国）の最盛期、ユスティニアヌス帝の治世だと言われる。記録上では541年に最初の感染が確認され、首都コンスタンティノープルの人口の33〜40%が死亡したと推定されている。

この後にもヨーロッパ諸国や中国で小規模な感染が起こったが、14世紀に入ってペストは世界史上最悪の大流行を引き起こし、3500万〜2億人が命を落とすたと推定されている。10世紀のヨーロッパでは農業革命と気候の温暖化により、人口が増え都市が発展していった。

ペストの流行の舞台はこの中世都市である。中世ヨーロッパの都市は城壁に囲まれており、閉鎖的で衛生環境も良くなかったとされている。

14世紀に入ると気候の寒冷化により飢饉が発生し、都市の人々は弱りきっていた。そこにペストが持ち込まれ、パンデミックを起こしたのである。14世紀に流行ったペストの発生源は中央アジアが起源だと言うのが現在の定説である。中央アジアで流行したペストはモンゴル帝国の侵略によってヨーロッパ世界に持ち込まれたのである。

さて、人々を恐怖に陥れたペストであるが、その当時の人々はどのようにしてペストに対抗したのか。有名な

のはベストマスクである。このマスクは当時の医師が感染を防ぐために診療中にかぶったものであるが、現代から見るとんでもない欠陥品である。そもそも中世ヨーロッパではベストは瘴気（悪い空気）によって感染するものだと考えられていたため、くちばしの部分ににんくや香草を詰め込んだとされている。だが、ベストは飛沫感染だけでなく接触感染、ノミによる感染などがあるためどう頑張っても感染リスクは避けられない。

4. ペスト（カミュ）とリアルなペスト

カミュの『ペスト』はフィクションであったが、この物語に出てくる人々の行動と実際に流行したペストには共通点がある。その共通点は現在のコロナ禍の中の人々にも通じる所がある。

カミュの『ペスト』の中にパヌルー神父という男が出てくる。彼はオラン市でペストが流行り始めたときにペストを「オラン市の人々の罪に対する罰」であると言った。

実際に流行した時、都市の人々は今まで信じていたキリスト教を疑うようになり、ギリシャ・ローマ時代の書を頼るようになっていく。これがルネッサンスの始まりだとされる。

そして現在、人々はスマホに流れる情報を頼りにし、デマに流されトレットペーパーを買いに走る。また、駅前ではコロナ陰謀論を掲げる人たちがデモを行う。

ペストを読んでいて面白かったところといえば、面白いほどに現在の姿と重なるところであろう。

5. 終わりに

科学技術の発展した今、大昔のペストとコロナウイルスを比べるのはあまり賢いことではないかもしれないが、『ペスト』の中に書かれている内容は今の状況と重なる所が多くある。こんな時代だからこそこの小説の面白さが分かるのではないだろうか。

6. 参考文献

- ・アルペール・カミュ、宮崎嶺雄訳『ペスト』新潮社
- ・神野正史『イラスト図解 感染症と世界史 人類はパンデミックとどう戦ってきたか』宝島社
- ・国立感染症研究所 コロナとは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansemohanasshi/514-plague.html>
- ・名古屋検疫所 コロナとは
https://www.forth.go.jp/keneki/nagoya/id/id_plague.html

感染症とフェイクニュース

高二A 寺 本 爽 汰

今回私が感染症とフェイクニュースという主題でテーマを設定したのにはいくつかの理由がある。その一つにコロナ禍の現在において物理的なウイルス感染の脅威は勿論多くの人が直面していて、予防対策を心掛けていることだと思うが、それと同様に巷には多くの、さながらウイルスのようにまき散らされ、瞬く間に広がっていくフェイクニュースが存在している。最近では「5Gがコロナウイルスを運んでくる」というデマが流れたのが記憶に新しい。ネットではあたかもそれが事実のように書かれている記事もあり、目を疑った。実はこのようなフェイクニュースは珍しいものではない。例として新型コロナウイルスに関するデマをあげよう。

● 深く息を吸って10秒我慢できれば感染症していない

● 鼻水と痰が出る場合は感染していない

● PCR検査は風邪も検出する

● 多くの患者の肺が繊維化する、肺がんよりも死亡率が高い

● イソジンなどのうがい薬はコロナウイルスを死滅させる

● アルコールでは消毒ができない

● 緑茶でコロナウイルスが死滅する

驚くべき事に、事実だと思っていたことがデマであった。イソジンに関しては正しい（フェイクではない）情報だと思っていたので、こうして考えてみると非常に広範囲に渡って情報が拡散されているのだと感じた。

感染症以外の話になるが、2016年度のアメリカ大統領選挙では選挙期間中にtwitterやFacebookなどのソーシャルメディアを通じて相手の陣営を誹謗中傷するような内容のフェイクニュースが書き込まれ、twitterやFacebookで「いいね！」を押したり「リツイート」されたりコメントされたりした回数は約870万回であった。一方、主要メディアに関しては約740万回で、フェイクニュースの方が人の目に付く回数が多かったのだ。この例から分かるようにフェイクニュースが世論を作る状況も存在するわけである。

このようなフェイクニュースの拡散は今日の目まぐるしいソーシャルメディアの発達で助長されている。

SNSが普及してきたのもここ十数年の出来事であるがそれ以前は主なメディアはテレビ、新聞であった。又は雑誌、週刊誌といったところだと思う。しかしながら今の若者（私たち）が最も身近なメディアはソーシャルメディアである。電車内で私たち10代の学生がTwitterやInstagramに代表される、不特定多数の人々が情報を発信できるSNSをやっているのを多く見るからである。

実際私の席の周りの友人の多くはSNSアカウントを持つっておりSNS上で見た記事の内容に関してクラスで話すこともあった。これらSNSの特徴はなんといっても、どんな人間でも自由に情報を発信できるという点、裏を返せばどこから来たか分からない情報であるという点である。恐ろしいのはどこから来たか分からない情報を事実だと受け止めてしまう事が多々あることである。

特に、多くの人によって拡散された記事に関してはリツイート数や「いいね！」の数を見ただけで、「この情報は多くの人に支持され、認められた情報なのだ」と本来フェイクニュースであるものを誤って事実だと思ってしまうところにあるからだ。勿論テレビも見ると、新聞を読む学生もいるだろう。しかしSNSの記事は多くの人々の注目を集めるために分かりやすく白黒ハッキリした、見た人に強い印象をつける記事を書いていることが

多いのである。それ故に知らない間にそれを事実だと受け止めてしまうこともあるのだ。我々の世代以外でもソーシャルメディアを使う人は無数にいる。また我々の世代が社会を動かす年齢になった時も我々はソーシャルメディアを使っているだろう。今の高齢者ではあまりないことだが80歳の方がSNSをやっているという社会になる可能性も将来的には十分にあり得るわけである。

今後ソーシャルメディアはさらに広がっていくと思うので、フェイクニュースに惑わされないメディアリテラシーを身に着けることが必要不可欠だと考えている。

中学校の部

生徒自治会活動報告

生徒自治会会長活動報告

生徒自治会会長 中三A 十 時 良 輔

この度、1年間生徒会長を務めた十時良輔です。生徒会長として1年間僕は、アイスやカップ麺の販売、などを目的とし、活動してきました。その過程で様々な事を、学びました。

最初に僕はアイスについての問題点などをだし、それを議会で、議論しました。その際に話し合うことの大切さを学びました。それは何故かとゆくと、自分にはない考えを、色々貰うことが出来たからです。書けば説得力増すようなことを色々書くことができました。そして、ほかにも色々なことを学び、これらのことを書いて企画書を出しましたが、結果認められることがありませんでした。だから、これを読んでいる中学生の皆さんに、頼みたいことがあります。それは、ゴミの分別をし

て欲しいことです。例えば一般のゴミ箱に紙、弁当のゴミを捨てるなどという行為があるのを、たまに見かけました。アイスの企画書を出した時に、先生方からは、アイスのゴミなどの問題点を多く言われました。だから、生徒の皆さんがゴミをしっかりと分別し、捨てることによって、先生方に認められ、アイスの設置が可能になると僕は思います。めんどくせえと思うかも知れませんが、僕達が果たせなかった事を皆さんに果たして欲しいと僕は思うので、ぜひご協力お願いします。

最後に今年はコロナで満足に活動出来なかったけど、僕は1年間をやり切ったと思っています。今まで1年間ありがとうございました

副会長活動報告書

生徒自治会副会長 中三D 奥村 慎太郎

議論があまりできず、公約も実現できませんでした。1年間という長い時間生徒会活動という貴重な体験をさせてもらいました。いつもノリと勢いだけで行動していました。もっと良い南山を築くことができるようにしたかったです。

TTK生徒会活動記録

生徒自治会書記 中三A 城 寶 優 希

みなさんこんにちは。生徒会書記の城寶です。今回は生徒会での裏話をしたいと思います。

掲げた公約

- ・アイスクリーム自販機の設置
 - ・購買の商品の追加、カップ麺の追加
 - ・半ズボンの許可
 - ・オンライン意見箱の設置
- についてお話しします。

まず、アイスクリーム自販機についてですが、結論から言うと設置は不可能でした。教員が言う理由としては10分放課にアイスを買って食べきれない事で溶けて教室が汚れるかもしれない。その溶けたアイスがべたついてしまい汚れるになると言うものです。ジュースをこぼしたときもベタついてしまうのではないかと言ったら、黙り込んでしまいました。それは触れてはいけなかったようです。

書記活動報告

生徒自治会書記 中三B 須田 涼太郎

二つ目は購買の商品の追加です。カップ麺の設置はスーパの処理などが面倒なので追加は無理でした。アイスクリームを学校に置くためには、ごみ問題や汚れ問題を解決する必要がありますということです。頑張ってください。

三つ目は半ズボンの許可です。これに関しては高校の生徒会の方で許可が降りたらしいです。すばらしいですね。

四つ目はオンライン意見箱の設置ですが、実はひっそりとやっています。インスタグラムで「ttssetokaikyo」で調べたらできます。気になった方は是非。

長くなってしまいましたが以上が生徒会の活動記録です。簡潔にいえば何もできないまま終わってしまいました。本当に申し訳ありませんでした。

僕は2020年度の書記、会計として生徒会に参加しました。残念ながら公約に関しては達成することは叶いませんでしたが、議会での経験やそこで出た意見は非常に有意義な物だと感じています。

これらの体験を今後に活かしていきたいです。

庶務活動報告

生徒自治会庶務 中三A 金子 纏

僕は昨年、庶務として中学生徒会に携わりました。

初め庶務という仕事に立候補した時、何をどうする役職なのかバツとせず自分なりに調べて見たところ、資料作成やデータ入力、ファイリングなどのデスクワークの他に、小口現金の管理、郵便物の送付業務、電話対応など多岐にわたるそうです。しかし、現金の管理をする経理など専門の役職が他にあり、僕なりに色々と考えた結果、上記のような人達の補佐として活動していこうと思いい立ちました。

以下の4つが掲げた公約です。

- ・アイスクリームの販売
- ・夏期における半ズボン着用の許可
- ・オンライン質問箱の設置
- ・購買の品の追加

まず、アイスクリームの販売についてです。1年間で1番多く議論していたのがこの公約に関しての事になります。帰宅後、生徒会のメンバーで何回も話し合いをして考えました。しかし、実現には至りませんでした。理

由はアイスクリームのゴミ処理や汚してしまった時の後始末などが挙げられます。アイスクリームを販売していない今でさえ、ゴミ箱からはゴミが散乱し教室は汚い状態になっています。

次に、半ズボンの許可です。昨年はコロナ禍の影響もあり、半ズボンの着用は認められていました。今年も恐らく認められる事と思います。

オンライン質問箱の設置は周知されていませんが、実は専用のアカウントを作っており実現しています。

品の追加についてです。僕自身、あまり購買に通わないので分からないのですが、生徒の反応を見るに追加されているのではないかなと勝手に思っています。

この1年間でアイスクリームの販売が出来なかった事が心残りです。ありがとうございました。

風紀厚生委員会活動報告書

風紀厚生委員長 中三D 丹羽孝太

風紀厚生委員長を務めさせて頂いた、丹羽孝太です。

新型コロナウイルスの影響で今年は、前期・後期の一年間を通して委員会で活動することになりました。一年間の風紀厚生委員会の活動をここで報告させて頂きます。

2020年度の風紀厚生委員会では主に三つの活動を行いました。

一つ目は感染予防の啓発ポスター制作です。中学生の各教室付近に「マスクをしよう」などのポスターを掲示して、生徒一人一人に感染を防ぐ意識を持ってもらおうと思いました。

二つ目は手洗いの呼びかけです。この呼びかけは十一月と一月、二月の第二週目（月、水、金）に玄関前で行いました。呼びかけの日は少なかったですが呼びかけによって手を洗う人が少し増えたので効果があったと思います。これからもさらに手を洗う人が増えるように呼びかけ方などの工夫をしながらこの活動を続けていって欲しいです。

三つ目は学校周辺の清掃活動です。清掃活動は毎年行

われていて、通学路をきれいにすることは大切であると思ったので今年も行うことにしました。清掃活動を行った場所はいりなか駅周辺の通学路、川名公園周辺と学校のグラウンド周辺です。僕が担当したいりなか駅周辺の通学路は思っていたより（気づかなかっただけかもしれませんが）ゴミが少なかったです。短い時間の活動ではありましたが、みんなで一生懸命に掃除をしてきれいになったのでとても気持ちよく終わることが出来ました。

今年の委員会活動ではTeamsを活用して委員会の連絡をスムーズに行えたのでとても助かりました。しかし、話し合いの時間があまり取れず僕が一方的に決めてしまっていた事もあり、みんなの意見をもう少し聞いておくべきだったと思いました。

最後に、委員会活動に協力してくれた生徒の皆さんご協力ありがとうございます。また、予定があるなか委員会活動に参加してくれた委員会メンバーの皆さん、おつかれさまでした。そして、委員会の活動について色々とお話に乗ってくださった先生方本当にありがとうございます。これで風紀厚生委員会の活動報告を終わらせて頂きます。

減多にない通年活動

文化委員長 中三C 吉野千雲

今年度、前期と後期の文化委員長を務めさせて頂いた吉野千雲です。

まず初めに今年度の大きな特徴は、某ウィルスによる活動範囲と任期の変化でした。まず、一学期の始まりが普段の四月ではなく六月に変更となり、その影響で任期が「通年」となっていました。また文化委員会が主催するイベントの内容に制限がかかり、いくつか計画していたイベント案が予定通りに実施できませんでした。

ではここからは無事実施できたイベントについて報告します。シフォンケーキ作り、研究者の方をお呼びした声のしくみの講演、英字新聞×2の三つが実施できました。

一つ目のシフォンケーキ作りですが、文化委員会の顧問である長久保先生のお知り合いのシェフの方に講師をしていただき実施しました。感染対策のため、人数をしばって実施したため、質の高いふんわりと美味しいケーキを焼くことができたのではないのでしょうか。

二つ目の講演ですが、お呼びした方は京都大学で霊長

類を研究され、2020年にイグノーベル賞を受賞したすごい先生にご講演いただきました。講演の人氣は高く、事前に把握していた出席者数より多くの生徒が集まりました。内容は声の仕組みや起源、おもしろい実験など大変興味深いお話でした。

三つ目の英字新聞についてですが、第一号では校長先生に南山についてインタビューをし、それを記事にしました。校長先生の南山への熱い思いを聞くことができてかなり良いインタビューになりました。第二号はシフォンケーキ作りと講演の報告です。こちらは別の文化委員会が記事にしてくれました。二つともいろいろな反響が生まれて良かったですし、読者の皆さんが楽しめたなら幸いです。

最後になりますが一年間お世話になった関係者や委員そして顧問の長久保先生に感謝の意を表したいと思います。今年度の間支えてくださりありがとうございました。

中学文化委員会新聞

Produced by The Cultural Committee



NANZAN TIMES

Winter Edition

DECEMBER 2020

Special Interview with Our Headmaster

How long have you been headmaster? What is the most impressive event during your term and why?

—I've been headmaster for five years since 2015. I've had two unforgettable events during my administration. One is the completion of the new school building, which is earthquake-proof. I'd like you to take good care of it. The other thing is the ongoing COVID-19 problem. Our school being closed for three months was an unprecedented event. It was a great pity that we couldn't hold a commencement ceremony for the 2019 graduates.

What are you most proud of when it comes to Nanzan Boys' School?

—I take pride in all the students not only as their headmaster but also as an individual. I'm also proud of all the teachers in Nanzan. Added to those, I'm proud of the parents of students.

'Religion' is a subject unique to Nanzan. What do you expect your students to learn most through this special subject?

—*The Bible* tells us a lot of stories about Jesus Christ, as you know. He always mixed with various people. He was connected not only with close followers but also with those who disliked him. This attitude is important. I'd like you to



Left: Ryo Suzuki (J3), Middle: Joseph Bruno Dasion (headmaster), and Right: Kazumo Yoshino (J3) in the headmaster's room

socialise with as many people as possible regardless of your likes or dislikes.

What do you expect Nanzan boys to do?

—I want all the students to love Nanzan. If you like your school, you will enjoy studying and club activities as well.

How do you think our school will be different in 10 or 20 years?

—I think the development of ICT and AI will change the educational environment. I expect the school equipment to meet the needs of the times. I am looking forward to seeing our graduates doing well in a variety of areas in ten or twenty years' time. I don't

think the school itself will change dramatically, but humans will. I can easily imagine many graduates will be actively involved in many things, both in Japan and abroad.

What is your favourite place in the school building?

—First of all, the classrooms are my favourite. I can see the students mature as people every day. The next is the teachers' room, where all the teachers work hard to support the students. The priority should, above all, be placed on the chapel, but I like the classrooms and the teachers' room, in which I can spend days with the students or the teachers.

A message to the students

—Think of Nanzan as a place you belong to, and come to school with enthusiasm. Although you might sometimes disagree with your friends in your daily life, treat your friends with great care.

Reported by Kazumo Yoshino

See the reverse side for the Japanese translation

NOTICE TO READERS

The next edition taking chiffon cake making and Dr Nishimura's special lecture is to be issued in March 2021.

Produced by The Cultural Committee



NANZAN TIMES

Spring Edition

MARCH 2021

Chiffon Cake Making – A Piece of Cake?

Sixteen selected students participated in the chiffon cake-making event on the 14th of December, 2020. Owing to coronavirus infection control, the cultural committee limited the number of participants to at most sixteen people. Those luckily chosen for the event made chiffon cake under the kind guidance of Mr Sasaki, a pâtissier of the restaurant called Kanon in Gokiso. While the pastry chef explained to the students how to make the cake, they were very keen on listening to him. He told them a secret: 'Whether the beaten egg whites can turn into smooth froth or not depends on how patiently

Mr Sasaki, the chef of *Kanon*

you can whip it up.' Every student successfully made a beautiful ring-shaped cake. After a two-hour cooking practice, everyone tasted the cake their instructor made and took their own back to their home.

A J2 student said, 'Whipping meringue was harder than I expected and I couldn't make it, but I succeeded on my second try.' The chef praised the



Left: Meguru Marui (J1)

Centre: Nao Sakabe (J2)

Right: Kanon Shigemoto (J3)

cakes each of the students made, saying 'Cooking is such an enjoyable activity that I hope you can try cooking various recipes with your family at home.' The owner of Kanon says the best part of being a chef is seeing the pleased faces of his customers. The event was tremendously

successful in that the cooking room was filled with a lot of smiles of the participants and the sweet smell of cake. Although it was rather cold outside with the temperature of 8 degrees Celsius, the atmosphere in the cooking room was warm.

Ig Nobel Winner Talks about the Mysteries of Voice



Dr Nishimura, associate professor of Kyoto University, delivered a special lecture titled 'Alligators and Primates on Helium' on the 19th of February, 2021. Around 30 students participated in a long-awaited event. The Ig Nobel laureate clarified how the helium gas experiment could lead to the elucidation

of human evolution. He began with the distinction between voice, which is the sound generated when air resonates as it passes over the vocal tract, and sound. Animals are categorised into two groups: voice-generating animals and sound-generating ones. His team's 2015 paper, which sheds light on the fact that alligators produce voice in a

helium-filled space, directly led to their receiving the award. This discovery, according to him, suggested that dinosaurs used voice instead of sound. The system of using voice could be traced back not only to the ancestors of primates but also to the common ancestors of mammals and reptiles.

He also told the students an unknown convention of receiving the Ig Nobel Prize. He had been informed of the award in July 2020, but he had to keep it a secret until September. He was also awarded 10 trillion Zimbabwean dollars, which is de facto worthless. He talked about the enjoyment and hardship of science, such as

the financial burden and the time requirement.

The presentation was so exciting that several participants asked Dr Nishimura a stimulating question. He answered every question each boy asked with easy-to-understand words. One J1 boy asked, 'Are you going to do research on other animals as well?' 'I am studying at the moment how the inner part of monkeys' mouths moves, by attaching some sensors to gibbons. My research subject will be primates because I am interested in humans. I want to make clear the origin of human speech', he said. All the attendants were captivated by the wonder of science.

文化祭実行委員会

文化祭実行委員長活動報告

文化祭実行委員長 高二B 加藤 大和

実行委員長の加藤大和です。今年の文化祭は「完全オンライン空間」のみでの開催でしたので前例がなくとても苦勞をしました。ここでは、主に実行委員長である僕が行った三つの仕事内容について言及しようと思います。一つ目は、企画の内容を考えるとということですが、これは、多くの時間をかけて話し合いました。その中でも最も多くの時間をかけて話し合っていた内容は「ライブ配信」についてです。約4時間、飽きることなく見続けてもらうことができるように全員で必死に企画内容について話し合いました。二つ目は、要綱書や要望書の作成です。今回の文化祭では、「オンライン文化祭」を実施するにあたって「プライバシーの問題」などからなかなか首を縦に振ってくだらない先生方を何度も会議を重ね交渉を繰り返し、要望書や要綱書を作成し、生徒会の先生方の協力のもと職員会議を通すことができました。

三つ目は、オンライン文化祭当日の台本作りです。ライブ配信を進行するにあたってミスは許されないためすべての発言に細かく台本を作成しました。

今回の文化祭ではPCを使える生徒が実行委員に少なかつたため、PC担当の生徒にはとても負担をかけてしまったと思います。ホームページの作成、YouTubeへの企画動画のアップロード、ライブ配信を行う上でのテロップの作成から企画動画の編集、すべて彼らに行ってもらっていました。

当初は「来場者なしでの文化祭」も検討していました。

しかし、毎年一年に一回の唯一学校にJKが入る日に向けて準備を必死に行う南山生にとって「来場者なしでの文化祭」では盛り上がり欠けてしまうのではないかと考え「オンライン文化祭」の実施に踏み切りました。どうしてもクラス企画は「動画作成」といったこともあり普段に比べも関わられる人数は減ってしまうといった欠点もありました。この問題は、来年以降の実行委員たちが解決しもっとより良い「文化祭」作ってほしいと思います。最後に、「オンライン文化祭であろうと」通常通りの文化祭「であろうとこれから文化祭を実施していく下級生の皆さん。「ぜひ新しいことに挑戦してみてください。」新しいことに挑戦し、成功を取めた時には

苦労と引き換えに、それ以上の達成感を得られることができます。実際、僕にとっても「ライブ配信」を行った。一日は決して忘れることがない大切な思い出になりました。どうかこれからも挑戦を続け、南山の「飛翔祭」をより良くしていきましょう。

今回の「オンライン文化祭」の実施に当たって協力してくださった生徒、教職員方々は本当にありがとうございます。

文化祭副実行委員長活動報告書

文化祭副実行委員長 高二D 小野 隼太郎

文化祭実行副委員長の小野隼太郎です。まず、南山史上初、オンラインで行った南山男子部オンライン文化祭2020を無事開催できたのは南山ファミリーのおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

また、このオンライン文化祭を開催するために、南山生が誇りを持って、いろいろなことを精一杯作り上げることができたと思います。その先頭に立ち、盛り上げることができたことは一生忘れられません。このオンライン文化祭を実施するにあたって、いろいろな通常ではありえない仕事をやらせていただきました。例年と全く異なる実施要項の作成、学校公認の文化祭実行委員公式Twitterの作成など、0の状態から新しいものを作ることでできました。こういったことはコロナ禍でなければ、経験できませんでした。この経験を自分の将来に活かしていこうと思います。

最後になりますが、今年度の飛翔祭を中止せず、飛翔祭の新たな歴史を刻めたことを感謝するとともに、来年、それ以降も、続いていく飛翔祭を実施する後輩たちに、

この南山の伝統を引き継いでいただきたいと思います。
ありがとうございます。

広報パトリダー活動報告書

広報パトリダー 高二C 大崎 詠介

2020年度文化祭にて広報パトリダーを担当した大崎です。僕の文化祭実行委員としての活動を報告します。今年は文化祭がオンラインになったこともあり、実際には広報以外の仕事もしたのでそれも含め活動を報告します。

本来広報の仕事はパンフレット作りやポスター配りなどです。しかし今年はオンライン文化祭になったこともありネットを通して広報活動をするようになりました。なので今年は文化祭公式サイトと公式ツイッターを開設しました。今年はすべてが初の試みでまず何をやればいいのかなどあまりわかりませんでした。しかしいざ文化祭の仕事に取り掛かると最初の仕事は広報の仕事ではなくオンライン文化祭での企画動画の手本動画の作成でした。実行委員には動画編集できる人材は自分しかおらず、一人で「手本動画の動画編集」「動画編集に関するオリエンテーション」等を行いました。その後2月くらいから文化祭公式サイトの作成を始めました。文化祭のサイトは動画公開当日まで完成しておらず、とても大変

でした。そしてライブ用VTRの作成をしなければならずテスト期間があったこともありライブ1週間前になってやっと作成を始めました。VTRの作成もライブ当日2時間前にやっと完成しました。その時僕は2徹でした。そのままライブ配信時のテロップ出しの最後の仕事が始まりました。しかしそこでタイムテーブルにミスがありました。ほかのミスはなく何とか終わることができました。ライブが終わったとき一気に肩の荷がおりました。今回の文化祭は例年以上に大変だったと思うし、初めての試みが多くとても達成感のある文化祭だったと思います。いろいろ貴重な経験をさせてもらいました。本当にありがとうございました。

オンライン文化祭報告

動画・生配信テロップ制作担当 高二D 鬼頭 巧

オンライン文化祭約3週間前突然(一応)広報パトリリーダーの大崎くんに動画編集を手伝ってといわれ、主にテロップ制作を担当しました。テスト週間が終わわり、生配信まであと5日もないのに何も終わってないという状況。もう少し早く準備をしていれば・・・そこから地獄のような日々でした。徹夜で作業し、生配信数時間前にすべてのコンテンツが完成したと聞き安心したのを覚えています。テロップ制作では必要なものが大量にあり、各バンドの曲名・各コンテンツのロゴなど数日では完成しないほどのものでした。作るのがマジで大変で、ほんとにもうちょい早くやつとけば良かったと何回思ったか、、(笑)例年とは違うけど、例年以上の文化祭になったと思っています。3週間前に急に手伝うようになり、前々日徹夜までするというよくわからない立ち位置でしたが、今回は最後の文化祭であり、自分なりに最高の思い出になりました。お世話になった先生方、実行委員会のメンバーのみんな(特に植田先生には大変お世話になりました)ありがとうございました。

クラス企画

【逃走中】制作を振り返って

高一C 江本 晃

僕らのクラスは逃走中を行いました。逃走中をやる上で特に大変だった3つのことを書きたいと思います。

一つ目はゲーム内容を決めることです。テレビではなかったミッションやゲーム展開を作ることで南山オリジナル逃走中を作り上げる努力をしました。特に難しかったのはミッションの中身を考えることでした。前日まで何回も練り直し、難易度の調整を行い、いかに面白いゲームにできるか考えることが大変でしたが、それとともに面白さもありました。

二つ目は実際のゲーム中の進行と準備です。学校の校舎をいつ貸切できるのか。どこの教室を使用することが可能か。どのように当日は動くのか。やることはたくさんありました。特に大変だったのはハンターゾーンの準備でした。前日の夜ギリギリまで学校に残り、完成させることができました。

三つ目は編集作業です。クラスみんな今まで一度も編集作業をしたことがなかったのでクラスの詳しい子を中心に行いました。テレビと同等のクオリティまで上げることは大変難しく、編集することで、テレビ局の技術の高さに驚きました。

以上のように様々なことをこなす事で、クラス展示最優秀賞を受賞出来ました！僕は賞が取れてとても嬉しかったですし、努力が実った気がしました。

受賞のコメントには、編集の技術が高かった。ゲームの難易度がちゃんと考えられていてよかったなど、コメントして頂けたことは嬉しかったですし、見てくれた方の目にも残ることができて良かったです。

クラスの子にやっていて楽しかった。やれて良かったと、クラス全体が文化祭を楽しむことができたことがなによりも嬉しい言葉でした。

来年は新型コロナウイルスが落ち着き、南山で最後の文化祭が盛り上がることを祈っています。

文化祭活動報告書

「竪穴式住居作ってみた。」

「Re..ゼロから始める縄文生活」

高一B 大前 蕉 真

準備内容

- ・ライネルス館前の花壇を使用するため、雑草を刈るなどの土地の整備
- ・様々な文献を参考にして、竪穴式住居を設計
- ・竪穴式住居を作るうえで必要な木材・竹等、材料調達
- ・ドラマで使用する土器等の小道具制作

コンテンツの内容

- ・竪穴式住居がだんだんと出来上がっていく様子、制作手順などの説明
- ・縄文時代の一般的な暮らしを再現

審査でのメッセージ

- ・とても独特で面白い企画だと思う
- ・オンライン文化祭であることを逆に生かした素晴らしい企画だと思う

感想

- ・これまで本校で本格的な竪穴式住居を作成した団体はなかったと思うので、新しい企画に挑戦しようとした姿勢は素晴らしい
- ・2部構成となっており、飽きない工夫がほどこされていた

今回、〃オンライン〃で文化祭が行われました。これまでの学校を会場とした文化祭では、〃校内でお客さんにしたのしんでもらう〃というものがあつたため、どうしても企画のレパートリーが限られてしまつていた。ですが、オンライン文化祭になつたことでそれぞれのクラス企画が今までの形ではできないものを企画し、完成させました。竪穴式住居を作る、しかも中に人が入つても絶対に崩れないようにしなければならなかつたので、相当頑丈に作る必要がありました。しかし、クラス全員が成功させるために協力し合い、結果、想像以上に出来のいいものを作り上げることができました。〃クラス全員で協力し、企画を成功させる〃という点は、普段の形式と変わらなかつたと思います。オンライン文化祭から学んだことを次回の文化祭に生かしたいと思います。

ありがとうカンボジア

高一A 青山晴彦

一学期、クラスはオンライン文化祭をやるかやらないかで話し合った。

投票結果は、ちょうど半分。楽しいし、クラスで何かを創りたい意見とめんどくさいやりたくない意見で割れた。

すると、担任である村瀬先生が、「来年君たちは、高二になって南山の文化祭をまとめる学年になる。」と仰った。

ここで、みんなの気持ちが変わった。

クラスのほとんどが、オンライン文化祭に参加する意見に変わった。ここでみんなの頭によぎった言葉は、「じゃあ何しよう?」 迫り来る企画案提出期限。めっちゃ焦った。ここでみんなの案を聞いた。「ストップモーション」「料理企画」「男だけでバチェラー」「クイズ大会」たくさんの案が出た。初めてのオンライン文化祭という未知の企画に僕たちは、何をすれば良いのかわからなかった。多数決や話し合いで料理対決に決まった。

試作の日、オムライスとカルボナーラを作った。男子

だけで作る料理は、非常に酷くて、食べ物かわからない出来だった。

もしこのまま本番に突入してしまったら、どっちも美味しくない料理対決という最悪の企画になってしまうと考えた僕たちは、動画全体をコント風にして、料理の出来を薄めようとした。審査員をカンボジア出身にしたり、プチグレさせたり、CMをつけたり、たくさんのボケを追加した。

そして迎えた撮影日。演者チーム全員がちよっと緊張する中、撮影は始まった。動画ではカットされているが、実は、審査員が蒲焼さん太郎を食べたり、ゴム手袋をかきこよくついたり色んなシーンを撮影した。その時の僕らは、「まあ、編集でどうにでもなるからいいや」と、最悪なことを思っていた。ーこれが、のちに悪夢を引き起こすとはまだ誰も思ってもなかった。ー

料理の出来は、試作の時とは、比べ物にならないくらい上手にできて、普通に料理対決をしても良かったぐらい進歩していた。

撮影が終わり、編集チームが編集がめちゃくちゃ難しいと分かった瞬間、編集チームが焦りに焦って蒲焼さん太郎を食べるシーンなどを全カット。他のクラスの完成具合を聞いたが、間に合わないかと焦って「ここカット

しよう」「この字幕いらないよね」とどんどん短い動画になってしまった。2、30分の動画の予定が最終的には驚愕の8分。今考えればちょうどいい長さだなあと思う。これ以上説明すると3年ぐらいかかるのでこころへんで。

そんなこんなで3位に入賞しました!! ありがとうございます!

最後にS1Aのみんな、先生方、ご覧になった全ての方、カンボジアの方々に感謝申し上げます。

「木曜日のアップダウン」

高二E 福島 康介

今年はいつものような文化祭ができず、初めての完全オンライン文化祭だったわけですが、オンラインならではの良さが出た文化祭になったと思います。僕のクラスの企画では、テレビ番組の水曜日のダウンタウンをまねた動画を作り、クラス部門第4位に入賞することができました。企画は、「入試から5年たった今なら南山の入試問題満点取れる説」カレー72時間煮込んだらめっちゃ美味しい説」など系4つを作りました。クラスの人を4グループに分けて、それぞれで1つの企画を作っていたわけですが、いろいろトラブルもありましたw。例えば、僕は撮影と編集を担当したので、企画の撮影をするわけですが、撮影をすると聞いていた日に行っても誰もいないなんてこともありました。撮影することだけ決まって誰が撮影に出るのか決まっていなかったんですねw。そんなこんなで、なんとか撮影も終わって編集に取り掛かっていくわけですが、そこでまた立ちはだかってくるのが著作権です。テレビ番組の素材をそのまま使ってしまうと、もちろん著作権に引っかかってしまいます。

そこで、すべての素材を自分で一から作りしました。また、録画が何時間にも及ぶものを10分程度にまとめるわけですから、編集にはものすごい時間がかかりました。45時間ばかりかかっていると思います。しかし、想像以上に多くの人から、「面白かった!!」と感想をもらえクラスのみんなと頑張った甲斐があったなと感じることができました。また、文化祭動画を作ることを通じて多くの経験をすることができました。著作権などに関する知識はもちろん、多くの人と1つのものを作り上げるという経験をすることができました。今年、このようなオンライン文化祭ができたのは、安藤先生や多くの先生方のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

オンライン文化祭活動報告書

中三E 白鳥晃平

僕たちのクラスは最初、オンライン文化祭は参加しないという方向で進んでいたがクラスの数人が強くやりたという声があり、一人の生徒が帰りの会でクラスメイトを説得し、参加することになった。だが従来通りの文化祭ではなく「オンライン文化祭」なのでYouTubeで面白くなるように企画を考えないといけないし、オンラインならではの準備、撮影などいろいろやる事があった。では企画決めや撮影においての良かった点と悪かった点をあげてきたいと思う。

良かった点

- ・みんなよくYouTubeを見ているので企画が出やすい
- ・撮り直しがきくのでいいものが動画にできる

悪かった点

- ・みんな面白いYouTubeをみているので求めるレベルが高くなる
- ・カメラの前で緊張しすぎてしまうことがある

などいろいろあった。この先例年通りの文化祭をやるにしても、いかなることも様々見つけた。

今回のオンライン文化祭でわかったのはやはり文化祭はやるべきだということだ。いままで文化祭はただの楽しいお祭りだとおもっていたが、それは違うということを感じた。文化祭は最初、よくやる気が出なかったり、数人しか準備していないなどのことが起こる。だが徐々に準備の人数増えてきて最終的にはクラスが一丸となり最高の文化祭となるのだ。だから最初からやらないと決めてしまうのはもったいないしそのあとの学校生活にも差が出てしまうと思った。なので文化祭に参加できたのはとてもよかった。

文化祭活動報告書

高二A 針山 優至

私達は高2A組は今回の文化祭で「運動会」をしまった。

今回の文化祭企画は「コロナの状況において体育祭などの行事が中止となる中で、それを復活させ、また運動会という普段の行事をこんな時にこそ行うことで視聴者に元気になっていただく」を目的として行いました。

今回、企画を行う上で最大の障壁は「如何に感染予防をし、学園の動画撮影ガイドラインに違反せず、選手にとって運動しやすい環境を提供するか」ということでした。解決策として「マスクに穴をあけ、試合中に休憩を多めにはさむ」ことで解決しました。しかし、この問題点が発覚したのは撮影当日で事前に見つけることができたはずでした。そこは悔いの残る所となりました。幸いにも植田先生をはじめとした諸先生方のご助力により、なんとか試合として成立させて撮影することができました。また、二クラス合同の撮影ということもあり日程の調整に時間がかかり撮影自体遅くなり編集にあまり時間がさけなったことも反省点です。

変わって、自己評価できる点としてはカメラの使い方にあります。

試合を試合全体のためのカメラだけだと一人一人が何をしているかが分かりにくくなり、また映像としても迫力がなくなってしまうので、カメラマンを二人使い近距離で撮ることによって映像に動きを持たせました。

オンライン文化祭という初めての試みであり様々な反省点がありましたが、自分としては成功したと思っています。また文化祭クラス実行委員になって、こういった企画作成という「テストで測れない力」を鍛えたのはとてもいい経験でした。

最後にご協力頂いた先生方に今一度感謝申し上げます。大変ありがとうございます。

Baka hub

高二B 片岡 慶

瀬 寄 悠 真

僕たちのクラスはくだらないけれど、成功するとカッコいいといったことを題材としたバカッコイイ動画を撮影しました。最初のうちはどのような技、シチュエーションにするかということを経験しながら話しかけることにとても苦労しました。当時、他のクラスと比べ大幅に遅れをとっていた為、定期考査前に具体的に何をやるかということを決め、考査終了後すぐに撮影に入れるようにする予定だったのが中々話し合いの出来ないまま冬休みを迎えてしまいました。

冬休みに入ってからもうとにかく撮影を始めようという事で一気に作業に取り掛かりました。クラス全員で手分けして協力した結果、撮影自体はなんとか1日だけで終えることができました。その後編集を担当の子達にしてもらい作品が完成しました。

最初の中々クラスをまとめることができず不安を感じていたのですが、撮影をした1日はこれまでに無いくらいクラスの協調性、団結力を感じることができました。

体育祭、修学旅行と言った色々な行事が潰れたこともあって今回のオンライン文化祭があつて本当に良かったなと思えました。

オンライン文化祭活動報告

高二C 河合 建 哉

・企画について

オンライン文化祭の企画として何をするか考えた時に、動画を見てもらう人に楽しんでもらうことはもちろん、僕たちも楽しめる、オンライン文化祭だからこそできる企画をしようと思い、液体窒素で遊ぶ（実験する）動画を作ることにした。他に出た案としては、GPS鬼ごっこ、クイズ企画、南山わらしべ長者などがあつた。

・準備について

液体窒素は学校の特別な保存容器を借りて、化学の上田先生に注文してもらった。他に様々なお菓子やスーパーボール、薔薇などは普通に僕たちで買い出しに行つて購入した。撮影はスマートフォンを使った。

・作成した動画について

僕たちの班で撮影した素材動画をクラスの編集担当の人に渡して編集をお願いしたところ、液体窒素に関するプチ解説、実験で起こった不思議な現象の解説を入れて

くれて、とてもわかりやすい動画になっていて、編集の人マジですごいと思った。字幕を入れてくれたのも、とても動画が見やすくなったと思う。

・感想

今年の文化祭は新型コロナウイルスの影響で中止だろうと思っていたが、文化祭実行委員の人たちのおかげでオンラインで開催でき、普段の文化祭では見られない企画がたくさんあって、オンラインならではのいい文化祭だったと思った。実行委員の人はもちろん、実験の監督をしてくれた上田先生、編集してくれた人、ありがとうございました。

いつもとは違う文化祭

高一D 青山 太河
駒田 俊

S1Dでは、『Real life trick shots』『利きグゥ』『料理対決』の3つの企画を行いました。今回は、それぞれの企画について書くと思います。

○『Real life trick shots』

きっかけは文化祭のビデオ作成の題材を探している時に real life trick shots という題の動画を見つけ、とても素晴らしい内容であったのでクラス企画の一つとして上げたことです。皆の意向によりこれをいよいよ作成する事となり、動画を撮り続けました。なかなか難しい撮影が多い反面、(中にはテイク200を超えた物もありました)成功した時は言い表せない達成感がありました。

○『料理対決』

クラスで案を出し合って決定した企画なのですが、何かテーマを決めた方が良いと思い、『外国の料理』と『郷土料理』をテーマにして進めることにしました。初めて

のことで日程調整や当日の準備に手間取り、思うように進むことができず、遅い時間までかかってしまいました。また、料理を担当した生徒に聞いてみたところ、何も考えずに、なんでもかんでも料理を入れてしまったことが反省点のようです。

○『利きグミ』

動画に出演した生徒にとっては、とても楽しい企画でした。たくさんグミを食べることができ、知らなかったグミを知ることができて、とても良かったです。しかし、視聴者が一緒にクイズに参加しにくい動画になってしまったのが反省点だと思います。また、グミの感想をもっと入れたかったそうです。

先生方にもお声掛け、お褒めの言葉を頂き非常に感謝しております。動画制作に関わってくれたみんな、本当によく活動に参加してくれました！ありがとうございます！！

J3B活動報告書

中三B 伊藤実樹

高田晃生

感想

- ・準備のときにもっとスムーズにやれたらもっとよい作品が作れたと思います。
- ・撮影中もかなり気を付けてやっていても何度も失敗することが多かった。
- ・審査でもらったメッセージが意外とたくさんあつてびっくりした。
- ・次もオンライン文化祭をやるしたら様々なことを改善して、クオリティの高い作品を作りたいと思った。

鶴舞線川名く八事散策くじ引きの旅

中三D 松野鷹正

今回のオンライン文化祭では鶴舞線川名く八事散策くじ引きの旅という企画をやらせていただきました。本企画では名古屋市昭和区ホームページにあるショウちゃんと巡るぶらり昭和区mapと言う散策マップを参考にくじを作り、遂行しました。南山周辺のスポットを巡り、意外と知られていないところがたくさんあることがわかりました。特に、選抜高校野球発祥の地が名古屋にあることは自分も知らなかったのです。また、美術館も多いことがわかり、穴場の観光スポットが川名く八事の間に多いと思いました。新型コロナウイルス感染症収束後、もし興味を持っていたただけた方はぜひその場所を訪れてみてください。

ピタゴラスイッチ

中二C 塩野谷日向

僕達のクラスは、南山生の持っている豊かな発想力を使って「ピタゴラスイッチ」のような面白い仕掛けのある装置を作ろうと考えました。

クラスで撮影をするという事なので学生生活感が出るように、文房具やダンボールなど学校で身近な素材を使うということを念頭に自分達で好きな物を購入しました。作業に於いての事ですが、実は2学期が終わるまでの1週間しか作業時間がありませんでした。数日間で作る終える班もあれば、1週間の出来では満足出来ず冬休み中に何度も学校へ赴いて大作を作り上げた班など、様々な形の装置が完成しました。撮影では、全ての装置を繋げて撮影するという話もあったのですが、コロナ禍で大人数で集まる事は控えた方がいいということになり、班ごとに個別で撮影した物を編集して1つの動画にすることで決まりました。

制作時間が少なかったり、途中で計画が変更になったりと様々な不安や困難がありました。が、クラス全員が自分の役割を果たして1つの作品を作り上げ、さらに多く

の外部の方達に見て頂けた事は、特別行事などがほとんど中止になってしまった今年度で1番の思い出になったと自分は思います。最後になりますが、オンライン文化祭を計画して頂いた先輩方、支えて下さった先生方に心から感謝申し上げます。

部活動企画

アメリカンフットボール部紹介

アメリカンフットボール部 高二C 橋 本 昂 大

高二D 仙 波 泰 輝

今回、僕たちの部活動のことを知ってもらうためにビデオを作成させていただきました。部紹介の一環で文化祭で動画を作ろう！となりどんな内容にするか、どんな感じで撮ればいいのかを素人があーだこーだ言いながら作るっていうかなり貴重な体験となりました。撮影も「この角度がいい！」「この場面が欲しい！」と大騒ぎ。挙げ句の果てには「編集でどうにかなる！」と丸投げされた部分もいくつか（かなり？）ありました。なんとか形になり部活動部門第一位という名誉ある結果までいただきました。このビデオでアメフトに興味が少しでもでてくれたら幸いです

「タイトル未定」

奇術部 高二C 水 口 竜 臣

奇術部が部員に向けて発行する通信があるのですが、その通信の名前が「タイトル未定」なのでこのタイトルも「タイトル未定」というタイトルにしました笑

さて、今回初めてオンラインでの文化祭ということで、わからないことがたくさんありました。同じマジックでも直接見るものと動画を通して見るものと見え方が変わったり、直接やると面白いマジックも動画にするとならなかつたり、またのその逆もあつたりと、まず何のマジックをやるのか決める段階で苦戦しました。

マジックを決めても撮る角度だったり、実際に撮ってみて初めてわかつた意外な落とし穴があつたりと撮影面でもたくさん苦戦しました。

反対にオンラインだからこそできたこともあり、普段の文化祭は間違えてしまったらその時点で終わりですが動画なので間違えても撮りなおすことができます。その分直接見せるより緊張はしなかつたとおもいますし、だからこそ少し攻めて難しいマジックや技にチャレンジした人もいました。そしてそのチャレンジに成功したひと

はマジックへの自信がさらについていたと思いますし、またそれによって奇術部全体としてのマジックのレベルもあがったのではないかと思います。

他にもYouTubeへ投稿するということで、著作権に引っかけられないBGMを探さないといけなかったことが想像以上に大変でしたが、著作権について詳しく学べたいい機会になりました。

たくさん苦戦はしましたが、結果部活動部門2位にはいることができてとても嬉しかったです。今回こういったイレギュラーな文化祭をしたこと、そして2位をとれたことは部員にとっても思い出に残ることなのではないかと思います。

頑張ってくれた部員、動画を見てくださった方々、応援して下さった方々、本当にありがとうございました。

文化祭を終えて

理科部地質班 高二D 加納 久嗣

初めに、今回のオンライン文化祭で部活動部門において3位をとれたことについて、協力してくれた部員、顧問の谷口先生・奥岡先生へ感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

僕は例年通りに恐竜の模型を設計して作り、先輩から代々伝わる模型製作技術を後輩へ継承したかったのですが、することができなくて残念でした。しかし、このような形で無事に文化祭を終えることが出来て良かったと思います。

もともと、企画案は5つぐらいありました。ボツになった企画のうちの1つで最も良かった企画が、山へ化石を掘りに行く企画でした。この企画は去年の5月ごろから決まっており、内容は化石を掘っている現地の動画を撮影して仮想アバターで動画に参加するといった斬新な物であり、技術がかなり必要とされる内容となっていました。しかしこの企画は撮影場所が危険であるため許可が降りずに断念になりました。

動画撮影について

包丁の動画は材料の石があまりにも硬すぎて研ぐことができず、インターネットの包丁に関する資料が参考になりました。そのため完成に5ヶ月近くかかりました。パイの動画はおまけ感覚で作りました。

動画編集について

包丁の動画は毎年 of 文化祭の部活展示の客層が家族（小学生連れ）が多いので小学生向けの動画内容にしました。（1日かけて作ったので次の日倒れました）パイの動画は一般的な量産型の料理動画を意識して作りました。（別に手を抜いた訳ではないです。）

最後に、この文化祭を通じて貴重な経験をする事が出来て大変良かったと思いました。

オンライン文化祭反省

プラスバンド部 高二A 山口 晃生

- ・著作権がややこしく、YouTubeに投稿できないものを用意してしまい、公開直前に動画の一致部をカットすることになった。
- ・高品質な音楽を提供するには多数の録音機材が必要で、個人の力に頼りざるを得なかった。
- ・迫力のある演奏を動画でいかに届けるかの工夫が必要。
- ・今回は4位という不甲斐ない結果だったので、来念はいい結果に残せるよう後輩に期待したい。

美の探求

写真部 高二B 河 口 航 毅

写真部は、今回のオンライン文化祭において写真の楽しさや美しさを知って頂くということを念頭に映像制作を行いました。例年の文化祭では、写真展示はもちろんのこと、教室の外装、内装にもこだわっており、ポストカードの配布まで行っています。しかし、今回の文化祭ではそのようなことができなくなっていました。そこで、写真を表示しながら部員たちがその写真を撮った時の感想や撮り方などを話すという動画内容にしました。私たちは、写真を撮りに行く機会もなければ、部活での合宿や撮影会のほとんどが中止になってしまいました。そんな中でも過去の文化祭に展示した写真などを使って、私たちの写真に対する思いを伝えることができましたと思います。動画編集においても見て頂く方にわかりやすいように字幕をつけ、画面全てに写真を表示する時間を作るといった工夫もしました。そして、なによりもオープニングとエンディングにはこだわりました。何度も撮影して、どのようにしたら見て頂く方に感動を与えられることができるか、ということに常に意識していました。

また、長時間の動画になり、動画に飽きてしまうと思いBGMにもこだわりました。このようなことが結果になり、部活動部門で5位を獲得することができました。昨年の順位である2位には及びませんが、賞を獲得できたことがとても嬉しかったです。また、審査で頂いた温かいメッセージに本当に感謝しています。ありがとうございました。この写真部のオンライン文化祭を通して少しでも写真の楽しさや美しさを知っていただくことができましたと思います。

経験

アマチュア無線同好会 高二D 中村 和音

アマチュア無線同好会は2つの動画を出した。それぞれの内容や感想等を記述する。

「1」部紹介動画

「アマチュア無線？盗聴なんかやってんの？」「どんなことやってるの？」とあまり知られていないようだった。そこで、アマチュア無線をより多くの人に知ってもらいたいと思い、アマチュア無線を紹介するところから動画をスタートさせた。

途中で無線機を使って交信するシーンがあったがこれが電波法第59条の規定に反しないかどうかを十分にチェックした。

先生方から「後輩への面倒見がいい部活ですね」といった意見をいただいた。「後輩への指導をしっかりする」という目標が僕の中にあつたのでそれを評価していただけたのは本当に嬉しかった。

「2」部活動管理総合システム

アマチュア無線同好会は2019年度秋よりCATS（部活動管理総合システム）という自作プログラムを使用している。これは、部活内の事務（例：出席管理・部員情報の照会）を総合的に処理することができるオンラインシステムである。この動画はこれを紹介する動画である。動画内容はマニアックすぎるので、ここではプログラムの誕生の経緯を紹介する。

2019年春、マルス（JRRの座席予約システム）というオンラインシステムに出会う。ほぼ同時期に兼部していた写真部で文化祭（例年ポストカードを配布している）をどうするかという話をしていた。そこで、ポストカードの印刷と合計印刷枚数等の集計が同時にできるものがあれば便利だなという意見があがった。僕はマルスを思い出した。そして「じゃあ作るう」という軽いノリでマルスに似たプログラムを一から作ることにした。2019年夏、プログラムは完成し、文化祭で運用させ特に問題はなく動いた。文化祭終了後、このプログラムを放置するのはもったいないと思い、アマチュア無線同好会用に改造し設置し、2019年秋に運用を開始し今に至る。現在は、部員のスマートフォンから部活の予定表が確認できたり、メッセージを送受信ができるようになっていたり機能が充実した。

以上

『逃げるは恥だが役に立つ』

英語部 高一D 駒田 俊

今回の企画の始まりは、オンライン文化祭開催の放送があった日の夕方、とある中3の部員の発案から始まりました。彼から、『英語部の恥だが役に立つ』というタイトルとストーリー案を出してくれました。当然、彼は逃げ恥を見て、ガッキーにメロメロであるのかと思いきや、一度も見たことがなく、ガッキーすら知りませんでした。どうやら、メロメロなのは高1のある人だけのようです。（誰とは言いません）恋ダンス、かわいいって話題だったのに……。毎年再放送されているのに……。「恋ダンス踊ろうよ!」と言ってみましたが、全員に拒絶されました。

今回、脚本・演技・演出・編集など、初めてのことがたくさんありましたが、出演者の演技力は数ヶ月ですごく成長したように思います。

脚本や演出には、様々なドラマを参考にしました。特に、『逃げ恥』『アンナチュラル』の野木亜紀子さんのテンポの良い脚本や、『リーガル・ハイ』での、小沢良太さんの脚本と堺雅人さんや新垣結衣さんの台詞の言い回

し、石原さとみさん主演ドラマ『アンナチュラル』の脚本・台詞の読み方・演出は、たくさん取り入れさせて頂きました。

編集はとても難しく、特にパソコンに動画がうつせず、スマホで編集することになったのですが、容量が不足していたり、データが消える（消してしまった）トラブルが起こったりと、徹夜する毎日を送りました。

こんな長い動画、あまり見る気が起こらなかったろうし、物語自体も分かりにくく、賛否両論あったと思います。しかし、それで良いと思っており、誰か1人でも面白いと思ってもらえたのなら、作った意味はあったと思います。この文章のタイトルの真意は想像にお任せします。

撮影が1月までかかり、提出が遅れてしまいました。申し訳ございませんでした。また、協力して下さった先生方、部員の皆さん、動画制作を手伝ってくれた高1の方々、本当にありがとうございました。

演劇の新たな可能性

演劇同好会 高一E 大岡 竜也

こんにちは。演劇同好会です。今回はこのオンライン文化祭で学んだ、新たな可能性について書いていこうと思います。演劇同好会ではこれまで文化祭時にステージを使い、人前で演技をしてきました。これは一回も失敗は許されないものなので、自然と内容が薄くなり、台本の台詞も少なくなります。しかし、オンライン文化祭では失敗しても何回でも撮り直す（実際に5、6回は撮り直します）ことができます。このようなことから学んだのは、演劇の新たな可能性です。これまでは年に一回、文化祭の時のみ演技をしてきました。しかし、オンラインという新たな方法が生まれたおかげで、YouTubeに動画をアップすることができるようになりました。今後は先生とも話し合い、年に何回か動画を作ろうかなと思います。しかし、演劇と動画の違いは人前で演技をするかどうかであり、演劇には実際に演技をする人を見る、という醍醐味があります。それを捨てることはできないので、コロナの流行が収まり次第、すぐにでも人前で演技をする練習を始めたいと思います。次に、この動画作

りで気をつけたことを書いていきます。演劇同好会では今回、2本の動画を作りました。一方は25分ほどの比較的長い動画で、もう一方は6分と短いものでした。この短さには理由があり、YouTubeではあまり長い動画は好まれないからです。しかし、一本はストーリーのある動画を作らなくてはならない。故に一本はストーリーのあるものを、もう一本はストーリーのないコントのような短い動画を作りました。今回足りなかったことは撮影の知識でした。カメラでの撮影は初めてだったので、カメラがブレてしまったりと映らなかったり、集音がうまくいかなかったり、カメラの視点がおかしかったりなどうまくいかないことが多かったです。しかし、これらは初めてだから当たり前、と思っています。今回学んだ知識をもとに、これからはより良い動画を作っていきたいと思っています。2020年オンライン文化祭、お疲れ様でした。

美術同好会 版画展閉幕を迎えて

美術同好会 高一C 犬飼 明

今回のオンライン文化祭は初めてのことが多く大変なものでした。

まず最初に、美術同好会としてどのような企画にしようか考えなければなりませんでした。

これまででは基本的に部員それぞれが自由に制作し、発表する形式が多かったのですが、今回は一本の動画としての統一感を出すために一つの制作方法、一つのテーマのもと企画を組み立てていきました。最終的には、みんな個性豊かな作品を作ってくれたので、統一感と個性がバランスよく合わさった展覧会になったと思います。

また、ドライポイントという自分も部員のみんなもやったことがなかった手法を経験出来たことは、とてもよかったと思います。

最後になりますが、ドライポイントと木版画の制作指導や、その他たくさんの方のアドバイスをくださった水野先生、そして動画なんか作ったこともなかった僕を助けてくれた父さんに感謝したいと思います。

ありがとうございました。

オンラインの有用性

理科部生物班 高一B 江崎 祐治

生物班は、9月の文化祭の部活動部門の金賞を狙いに活動してきただけに落胆は大きかったです。いざオンライン文化祭の制作が始まってわからないことが多すぎていろいろ厳しかったです。

「内容決め」

生き物に関することは、生で見てもらわないとなかなか伝わらないことも多くて内容決めに苦戦しました。普段の文化祭で生き物を展示していますが、その過程を見てもらっていないことに気が付きました。そこでオンライン文化祭を通じて、部員たちの活動様子をできるだけ身近に伝えようと考えました。

「制作過程」

撮影については、普段通りの様子を撮影するように心がけました。

撮影場所が川の中だったため、撮影機材を落とさないようにとか、できるだけ写りをよくしようとなご様々な

面を気を付けました。

撮影時間は、4時間程に及びましたが、その日はたまたま様々な生き物を採集することができました。

編集については、15分という短い時間に収めるために厳選することが難しかったです。できるだけ簡単にわかりやすくするように心がけました。

「その他」

生物班の活動として、「なごや生物多様性シンポジウム」に出展しオンライン文化祭について話させていただきました。

「まとめ」

今まで気楽にみていた、YouTubeのすごさがとても分かりました。動画の撮影、編集など今までやったことのないことをやることはとても大変で難しかったです。が、とても良い経験になったと思います。

プラネタリウム

理科部天文班 高一B 児玉 康 佑

1・今回の文化祭について

今回の文化祭は新型コロナウイルスの影響により前年のような大勢の人を学校に呼んで一年間の活動の成果を見せることができず大変残念ですが、このようなオンライン文化祭も楽しく、いい体験になったと思います。また他の団体の作品も傑作揃いで文化祭自体のクオリティーがたかかったです。

2・準備で苦労した点

今回の文化祭では動画の展示という一度もやったことはなく、いろいろな苦労がありました。一つはやはり動画の取り方です。我々の動画は音声だけでしたが、使ったことのない機器を使わなければなく1分ぐらいの音声を取るだけでも苦労しました。また動画の編集も大変で、画像を加工しなければならなかったので、とても大変でした。著作権にも気を付けなければならなくて、とても疲れました。

3・感想

今回の文化祭は撮影作業や動画編集など初めてすることが多く問題もたくさんありましたが結果的には良い作品ができ、非常に楽しい文化祭となりました。最初でも説明したように今回の文化祭は素晴らしい作品が多く質の高い文化祭であったので、また次回があるとしたら、一位になれるように頑張りたいと思います。また動画編集や撮影作業で培われた技術は将来大人になったときにとっても役立つと思うので、最初はあまり乗り気ではありませんでした。やはりやってよかったと思いました。しかしいつもの文化祭にもまた違った楽しさがあるので、コロナウィルスが収まったらいつもの文化祭をしたいと改めて思いました。

今回のオンライン文化祭を通して

歴史研究同好会 高二B 日比野 匠 徒

・コンテンツの作成のために私たちの部活動は展示物を毎年作るのですが文化祭では完成品を展示するだけで作成過程は展示する機会がなかったので今回のオンライン文化祭がよい機会と思い作成過程の撮影にした。

・準備段階においては動画作成の苦労がわかった。私たちが今回作成したのは鯺だったのだが木枠を作成してその上に紙粘土などで肉づけしていったのだが1mほどあるものだったので絵面が黙々と紙粘土を張り付けるといふ絵面をまったく気にしない映像が大半を占めヒレの作成や色塗りにおいては動画を取り忘れていたので動画編集の際とても大変だったことをよく覚えている。

・感想全体を通してとても楽しかった。部活仲間と共同作業をして同じ時間を過ごした今年が最後の文化祭でもあるので文化祭を開催してくれた生徒会や文化祭実行委員や先生方にも感謝の気持ちもある。

また今年のオンライン文化祭を通してのアドバイスは動画撮影はいい意味での「やらせ」が必要であることで

ある。やらせがないと動画が面白くなくまた編集が非常に大変になるので動画の起点となるところや面白いところはやらせをしたほうがいい。

有志企画

活動報告

南山弦楽合奏団 高二C 水口 竜臣

※架空のインタビュアー形式で感想を書いていきたいと思っています。

インタビュアー…どうして弦楽合奏をやろうと思ったのですか？

生徒・M…英語の先生に急に呼び出されて、「バイオリン弾けるらしいね、文化祭でなんかやってよ」と言われたのがきっかけですね。

生徒・W…僕は昼休みに予備室に呼び出されて、楽器渡されました。楽しそうだったのでOKしましたけど。

インタビュアー…どれくらい練習しましたか？

生徒・K…1か月半くらいです。

生徒・M…授業後後だけだと予定が合わなかったので、

昼放課にも合わせたりしました。

インタビュアー…苦勞した点はなんですか？

生徒・T…自分のことで精いっぱいになってしまつて、周りの人と上手く合わせるのが難しかったです。

生徒・ば…通奏低音としての役割もあればコントラバスの譜面に減多に出てこないような高い音があつたことですね。五線の上に音が並んでいるのを見たときは（しかもト音記号）、楽譜間違えたかなりつて思いました。でも逆にやりがいがありました。

生徒・M…僕は「飛ばし」奏法が難しかったです。

生徒・K…小さいころから習っていたけど、人と合わせるのがはじめてだったので、難しく感じました。

生徒・L…バイオリンは少しやっていたけどビオラは始めたばかりだったので、音程が難しかったです。

インタビュアー…やってよかったと思う点はなんですか？

生徒・ば…南山男子で弦楽できたことですね。東海には

オーケストラがあつて、女子部には器楽部があるし、うらやましく思っていました。

生徒・K…一人で弾いてるのと違った面白さに気づけたことです。

生徒・T…普段絡みなかった人と関わる事ができたことです。あと、普段授業してもらっている先生が動画を見て、「こんなことできるんだ」って言つて貰えたときはとても嬉しかったです。

生徒?・L…高2生と思ひ出が作れたことです!

生徒・M…バイオリンしばらく弾いていなかったのですが、この企画をきっかけにまたやつてみようかなと思いました。

生徒・W…重奏の楽しさに気づけました。

感想は以上です!最後までお読みいただきありがとうございます!

高校執行部企画 「南山生の知らない南山」を作成して

高校生徒会執行部 高二E 横山 大河

まず、執行部が動画を作成するに至った経緯について話したいと思います。高校執行部では毎年文化祭企画としてレポートを作成して公開していました。今年度は文化祭がオンライン開催になりましたが執行部でも何か作りたいと思い、レポートのような堅苦しいものではなく、南山生以外のひとにも見てもらえるような動画コンテンツとして「南山生の知らない南山」という題名の、南山の施設を紹介する動画を作成することになりました。

動画では、学園講堂の舞台の裏側や地下の会議室、ライネルス記念館、聖堂を生徒会長の横山と副会長の山本君が紹介しました。また、動画内のナレーションを書記兼会計の水谷君にお願いしました。編集は横山が担当しましたが、本格的な動画編集は初めてだったためすごく時間がかかり、年末は毎日PCルームに通って作業をしました。結局動画を切り貼りしてセリフにテロップを入れただけの映像になってしまいましたが、ほぼすべてのセリフにテロップを入れたことで、声が聞こえにくい部

分の内容も分かりやすくなりました。

公開前、再生回数が五百回超えたら十分と執行部で話していましたが、山本君の後姿をライネルス記念館で撮影した写真を使ったサムネイルも好評で、最終的に再生回数が千回を超えました。コメントでは、「知らない南山を知ることができてよかった」などのコメントを多くいただきました。結果的に有志企画部門第二位という表彰もいただきました。動画を見てくださったみなさん、コメントを書いてくださったみなさん、またアドバイザーの植田先生、撮影に立ち会ってくれた水野先生、そして撮影に協力いただいた南山アーカイブスのみなさんなど、多くの人に支えられて成り立っている企画だと思っています。本当にありがとうございます。

オンライン文化祭を終えて

カービィプレイヤーズ 高二E 尹 燦 禍

・苦労したこと

【ピアノの人】メトロノームの音だけを聞きながら伴奏を弾くのが大変だった。

【クラリネットの人】多重録音のためズレていても気付かなかった。

【いろんな楽器の人】六つの楽器の録音するのに冬休みの三日ほどかった。

・やってよかったなと思ったこと

【みんな】表彰されたこと！完成したものがよかったこと！

・友人やまわりの人の反応

【ピアノの人】すごいね。

【クラリネットの人】すごいね。

【いろんな楽器の人】すごいね。

・思い出に残ったこと

【ピアノの人】完成形を聞いたとき。

【クラリネットの人】三人で朝から夕方まで音楽室にこもり録音したこと。

・製作にまつわる秘話

【ピアノの人】先生に階段ですれ違いざま誘われたこと。

【いろんな楽器の人】実は編曲がプロ。

和太鼓

南山和太鼓衆 高二D 松原 大知

この和太鼓衆は僕らが中学2年生の文化祭で結成され、中学3年生・高校1年生ではやれず高校2年生で少ない人数の中、再結成しました。このコロナ禍でリモート文化祭にはなりましたが和太鼓の良さがちゃんと伝わり、みなさんのおかげで有志部門で4位を取ることができました。本当にやってよかったです。

“City” - Dreamer

Dreamer 高一 A 山 口 史 温

僕は小さい頃から絵を描くのが好きで、2019年の元旦にデジタル絵を始めました。スマホをもらったときにはすぐに絵描きアプリを入れ、登下校中はずっと指で描いています。このアニメーション動画もほとんど地下鉄とバスの中で描いたものです。

実を言うと、僕は今までアニメーションはほとんどやったことがなく、アニメーション用アプリすら持っていません。僕が作った動画は絵描きアプリですべてのフレームを描き、それを動画編集アプリで繋げて作りしました。できたアニメーションに弟が作ってくれたBGMを入れ、動画は完成されました。制作には2ヶ月以上かかりました。

最初この動画がYouTubeにあげられているのを見たときには「こんな動画がたくさん再生回数を稼ぐことはないな」と思いながら毎日確認していました。しかし思った以上にたくさんの方が見てくださり、審査結果で有志部門第5位になったのを見たときにはものすごく嬉しかったです。

審査でもらったメッセージの中に「一人で作ったなんてすごい」というメッセージがいくつかありましたが、友達やアドバイザーに選んだ先生などによる応援があってこそこのような動画が作れたと思います。彼らのおかげで最後までこのプロジェクトを上げることができたので、大変感謝しています。

今回のこの動画制作はこれから絵やアニメーションを作り続ける力をもろう良い機会でした。次の文化祭でもこのような動画を作る機会があればさらにクオリティーの高いものを作りたいと思います！

コロナ禍の企画リーダーの苦勞

愛知県高校生フェスティバル南男子内

高二A 櫻川 結基

今回、オンライン文化祭の有志企画のリーダーをさせてもらいました。コロナ禍ということもあり例年通りのやり方では無いものの自分達高校生がやっていることについて発信したいと思い『群舞』という形で発表させてもらいました。企画立案はしたものの人が足りない、編集の仕方がイマイチ分かっていない、など様々な壁がありました。そんな時にも自分の出来ないことを補って（むしろプラスしてくれている）くれる仲間がすぐ近くにいることに改めて感謝したいと思いました。今回の文化祭企画のリーダーを務めてみて人を指揮している重圧と責任、また上がいくらダメでも着いてきてくれる心優しい仲間、こういったことに気づかせてくれました。この経験は今後必ず社会で生きてくると思っています。今年もまだコロナが落ち着きそうにありません。

例年の本当にお祭りのような（中一、中二はまだ分からないと思いますがめちゃくちゃ楽しいです。）文化祭が戻ってくるのはまだまだ後にはなりそうですがオンラ

インではオンラインならではの学べる所もあります。なので今年度もどんな形であれ文化祭が実施されることを心より願っています。

オンライン文化祭を終えて

Hydrogen（ハイドロゲン） 高二B 松 本 健 杜

高二E 勅使河原 大志

「松本」今回、有志ダンスという形でオンライン文化祭に携わらせていただきました。練習時間が限られている中、頑張って振付を覚えしました。一部のメンバーが練習に参加できないという状況の中、よくここまでがんばれたと思います。このグルーブを結成当初、僕はたまたま教室にいてそのままのノリで結成されました。こんな突然のことであつたが全力で協力、サポートしてくれた植田先生には感謝したいです。また、動画を見て「良いじゃん」と多くの人が褒めてくださったのでやってよかったと思います。

「勅使河原」コロナ禍で何もできてない中何かやりたいと思って、最初は何も考えずに踊るかと言って始まった文化祭。振り付けを覚えるのが難しく、やめたいと思つたこともあつたが、何度も練習して徐々に上達していき始めて踊りきれた時は何事にも変えれない達成感があつた。

オンライン文化祭はもちろん初めてで、有志企画もしたことがなかったためどんな感じなのか想像もつかなかったが終わってみて「良かったよ」などと感想を貰えてとてもやりがいのあることが出来て良かったと振り返ることができた。

こういった場を設けてくれた人達や見てくださった人々、そして一緒に練習してくれた仲間達に感謝して、この貴重な経験をこれから活かしていきたい。

science & chemistry

科学グループ 高一A 南 佳 吾

【時短で作る化学ゼリー】

▲きっかけVブラックライトに興味があり紫外線を可視化したいと思いました。それに2020年レバノンでの大爆発の原因となったと言われている硝酸アンモニウムを組み合わせて短時間でゼリーを作る実験を思いつきました。

▲コンテンツの内容V紫外線を可視化する食べ物でもいいゼリーを作った。硝酸アンモニウムを使ってゼリーを数分で凝固させた。

▲感想Vゼラチンの代わりに寒天、トニックウォーターの代わりにオロナミンCを使えばもっと簡単に実験ができた。ブラックライトを当てると青色に光ったときは感動した。

【人工衛星の電波解析】

▲きっかけV2020年12月に国際宇宙ステーションで電波を受信するイベントを開催していたから。

▲コンテンツの内容V学校の中庭で人工衛星や国際宇

宙ステーションから電波を受信しパソコンに取り込んだ。▲感想V電波を探すのが予想以上に変で、4、5時間かかりました。宇宙ステーションからの電波や、九州や朝鮮半島の画像を受信できたときは嬉しかったです。

【審査でもらった主なメッセージ】

- ・人工衛星解析から、宇宙を感じました。
- ・化学というものは素晴らしいということを改めて知ることができた。
- ・こういう実験みたいなのがすぐできる南山ってやっぱり優秀、施設がいいからんですね。
- ・とても難しいことを解説を交えながらやっていて、おもしろかったです。
- ・どれも詳しく、より丁寧に説明されており、特に短時間で光るゼリーが作れることに驚きで一杯です。
- ・光るゼリーが神秘的ですね。サイエンス的な解説もよくできています。

動画作成を通してたくさんのことを学びました。早くサポートして下さった先生方、アンテナをお借りしたアマチュア無線部、科学グループのメンバーに感謝します。

楽器をほとんど弾いたことのない 中学生二人でリコーダーをガチってみた

K・R・中二C 萩原 憲 汰

僕はオンライン文化祭の話聞いた時、どういふものが全く想像できませんでした。文化祭というのは僕たちの学びの場である校内でやることに意味があるのではないか、と思っていたからです。確かにオンライン文化祭は参加している実感を持ちにくいという面もあったと思います。ですが、インターネットを使うことで普段より多くの人に自分たちが作った作品を見てもらえるオンライン文化祭はとても楽しかったです。

今年コロナウイルスが収束せずに前のように文化祭が行えなかったとしても、今回のようにオンラインで参加したいと思いました。また、オンラインであるということに抵抗感を持たずにもっと多くの生徒に参加してほしいです。

逆再生おもしろ動画

space-ツナ 中二B 河井 順

撮影での1回目はJ2Dの教室で出来ましたが、2回目は、まさかの川名公園でした。しかも、風が強かったのも、とても撮影が大変でした。編集では、NG集を入れ忘れていたので、少し面白くなかったです。また同じような企画をやる際には、2個カメラを置いてつくっている過程や休憩中の様子を入れたいと思います。他には、短い動画をたくさんではなく、校舎内を歩きながらダンボールを踏んだり、外で水をかけたりする長い1本の動画にしたほうがいいなと思いました。BGMはゆったりとした音楽を流せばいい感じになると思います。後、動画の名前も変えたほうがいいと思いました。いろいろな企画が出ているので動画が一旦できたら見せ合って、この企画のどんなところいいのか悪いのかを話し合う場も設けていいと思いました。そうすればこの企画のどこが面白くてここを真似すればいいのか分かってどの団体の企画も、良くなり南山オンライン文化祭が盛り上がると思います。

バンド企画

2020年度 文化祭

活動報告書 「meerkats」

meerkats 高二A 野々部 道樹

・活動内容

・バンド（有志演奏）

・メンバー

・野々部 道樹

・木戸 伯

・山岡 祥之

・楽 紀宏

・meerkatsについて

始まりは高校一年の芸術選択で音楽を選択したときに近くにいたもともと仲のいいメンバーで「面白そうだし、バンド組んで文化祭のステージ立ってみようぜ」と今とは別のメンバーでスタートしました。知識も時間もない

中でステージに立ち、たくさん失敗しました。しかしそこで僕は計り知れないほどの「達成感」と、みんなが口をそろえて「楽しかった、またやりたい」という強い気持ちでした。「あの時間をもう一度」そんな思いで、一年前から準備してきました。メンバーが変わることもありました。何とか完成形が見えてきたところで、「コロナ」というウイルスに僕らが目指していたものを阻まれました。そんな中で、文化祭実行委員会や先生方、業者さん方のおかげで、無事にライブをすることができました。本当にこのオンラインライブは楽しかったです。

南山高校の「文化祭を絶対に成功させたい」という気持ちをその場にいた全員から感じられるくらいの熱気と盛り上がりでした。本当にあの瞬間に今戻れるなら戻りたいくらいです。これから先コロナが収まり、通常の文化祭になっても、同じオンライン文化祭になっても、「僕らの代の文化祭が一番です」と胸を張って言えるほど本当に楽しい文化祭でした。

文化祭実行委員会や、担当の先生方、業者の方々のおかげで僕らにまたあのステージに立たせてもらえたことに感謝しています。

ありがとうございました。

6. 5 文型

日本人英語学習者にとって5文型の考え方がほど便利で有益なものはないだろう。トランプ前大統領の2020年における大統領選のスローガンは Make America Great Again であった。これは作為動詞 make が目的語に America を、補語に Great を伴った文である。「アメリカを再び偉大に」という意味である。2020年の大統領選において20年前同様の混乱が起き、結果の発表までには時間がかかった。そのことを受けて、イギリスの新聞 *METRO* は11月5日の一面に (19) の見出しをつけた。

(19) MAKE AMERICA WAIT AGAIN

2000年にブッシュ大統領とゴア氏が争った時に集計作業に多大な時間がかかり、ブッシュ大統領が勝利宣言を出すのに1か月以上もの時間がかかったという背景が含意された見出しである。

ところで、バイデン大統領の選挙戦のスローガンは Build Back Better であった。頭韻を踏み、2音節以下の本来語を用いた表現だけに一層記憶に残る。アメリカ第一主義を掲げるトランプ大統領によって損なわれた国際協調の精神を取り戻そうと呼びかけるものであった。

まとめ

英文法の正確な知識は英文を理解するうえで欠かすことができない。本稿の一部は学習英文法ではあまり深く扱わない項目をイギリスの新聞の見出しを題材にして取り上げた。ややもすると素通りしてしまうであろう文法形式が実は奥が深く、興味深いものであることを伝えたつもりである。英語学習者には、皮相なコミュニケーションも悪くはないが、中身のあるコミュニケーションを楽しむために英文法を学ぶことを楽しんでもらいたい。

ことはを引用している点では同じだが、G はさらに上級顧問の役職を辞任することは拒んだと付け加えている。G は辞任を求める多くの国民感情とのズレを伝えている。大衆紙の DM は「後悔も謝罪もなし」と名詞表現で短くまとめてカミングス氏が辞任しないことを非難している。

(15) の高級紙 2 紙の報道内容はカミングス氏の件で保守党員が反乱を起こすという点では同じ内容を伝えているが、G では ditch に注目したい。ditch の「(恋人)を振る」という意味はくだけた使い方とされる。この語を用いることで首相は(恋人のように大事にしてきた)カミングス氏を更迭することができないという印象を読者に与えるだろう。それにより首相の優柔不断な態度が浮き彫りになる。なお、DM はカミングス氏が辞めなければ茶番だとダラム市民が激怒して語った様子をお決まりの頭韻で表現している。

5. 時制

現在時制が未来を表すことがある。その典型的な例として、時や条件を表す副詞節で現在時制を用いて未来のことを表す。英語を学んでいる受験生にはお馴染みの使い方である。したがって (16) のような例文に出くわすと驚くだろう。

(16) £10,000 FINE IF YOU WON'T SELF-ISOLATE

これは2020年9月20日の大衆紙、*SUNDAY EXPRESS* の一面に掲載された見出しである。その記事は新型コロナウイルスに対する検査結果が陽性だと判明した後に自己隔離を拒む者に対して1万ポンドの罰金を科すことを伝えている。IF 以下の条件節では「意思の will」が用いられている。Quirk et al (1985:1009) には will が意思を含意する場合、(17) や (18) の例文とともに if 節で will や won't が生起することが述べられている。

(17) If you'll help us, we can finish early. ['are willing to']

(18) If you won't help us, all our plans will be ruined. ['refuse to']

ここではまさに refuse to に置き換えることができる。学習英文法の盲点を突く使用法である。

カミングス氏の件が最初に報道された5月23日の3社の見出しを(12)、25日を(13)、26日を(14)、27日を(15)にそれぞれ示す。

(12) DT: Cummings caught in lockdown rule breach

G: Police spoke to Cummings about lockdown breach

DM: CUMMINGS BROKE LOCKDOWN RULES while he had coronavirus symptoms

(13) DT: 'He has acted responsibly, legally and with integrity'

G: No apology, no explanation: PM bets all on Cummings

DM: A CHEAT & A COWARD

(14) DT: 'I don't regret what I did'

G: 'I don't regret what I did.' Cummings refuses to quit

DM: NO REGRETS NO APOLOGY

(15) DT: Tories revolt as voters turn on Cummings

G: Rising Tory revolt over PM's refusal to ditch Cummings

DM: FARCE AND FURIOUS

(12)では高級紙2紙において態の選択が対照的である。DTは受け身文でcatch in(つかまえる)の動作主が明示されていない。読者は見出しだけではそれが警察なのかマスコミなのかを推測せざるを得ない。ひねくれた見方をすれば、DTは動作主が警察であることを意図時に隠したとも言える。Gは権力をもつ警察を主語にすることにより外出制限違反をしたカミングス氏の行為がただならぬ出来事だという印象を読者に与える。また、DMは規則に違反したという事実を強調している。

(13)ではDTはジョンソン首相の言葉を引用し、カミングス氏が首相からの厚い信頼を得ている様子がはっきりと伝わる。首相の擁護する言葉を引用することで、読者に対してカミングス氏の行為は問題がないものであると誘導することもできる。Gは首相から国民に対して謝罪や説明がなかったことを伝えている。この見出しにはGの不満が内包されている。DMは大衆紙らしく二人の顔写真を掲載して「詐欺師と臆病者」と感情に基づいた評価をくだす見出しをつけている。

(14)は前日に行われたマスコミとカミングス氏との首相官邸で行われたやりとりを基にした報道である。DTもGもカミングス氏の後悔の気持ちはないという

ナイト爵位授与式で女王が剣で肩を軽くたたいて「Arise [Rise], Sir …（さあ立ち上がれ、サー…）」と用いる言葉とされる。見出しは造語によることば遊びの結果生じた語である。raise は他動詞で「(金)を集める」という意味。読者にしてみれば目的語は「寄付金」だというのは明確で、わずか3語の内に普段使っている定型表現を借りながら言葉遊びをしている点に可笑しさがにじみ出ている。読者に対してコロナによる連日の暗いニュースを吹き飛ばしてくれることは間違いないだろう。

4. 現在完了

現在完了を用いた見出しを見る前に、事件の背景を簡単に説明する。ジョンソン政権の上級顧問を務めるカミングス氏は都市封鎖をしているにもかかわらず、ロンドンからダラムまで車で移動した。その行動の是非を問われた首相はカミングス氏の行動は正しかったと擁護した。カミングス氏の移動の目的は自身と妻が新型コロナウイルスに感染する前に息子を親類の元に自主隔離することだったようだ。この件が最初にマスコミに取り上げられたのは5月23日であり、高級紙の *The Daily Telegraph*（以下 DT）と *The Guardian*（以下 G）、大衆紙の *Daily Mirror*（以下 DM）は以後数日にわたって一面で詳細を報じた。

5月25日に DT の一面には (11) の見出しが載った。これは引用符から明らかのようにジョンソン首相の発言の一部である。

(11) 'He has acted responsibly, legally and with integrity'

He とはカミングス氏のことである。ジョンソン政権下では上級顧問に就いているが、カミングス氏は2016年のブレグジットの是非を問う国民投票で離脱派の選挙参謀として指揮をしていたことで知られている。首相は彼を一貫して信頼しているのだろう。現在完了を用いることで、彼を顧問として役職に迎え入れたときからずっと責任をもって、合法的かつ誠実に行動しているのは今も変わらないというメッセージを伝えている。

ところで、DT の政治的立場は保守党寄りだが、G は保守党に対してかなり批判的である。大衆紙の DM も保守党に厳しい態度をとっている。そのようなイデオロギーの相違が見出しにおいてどのように表出されているのかを統語、語彙、談話の観点から観察する。

(8) *Come* what may, we will go ahead with our plan.

God *save* the Queen! ['May God save the Queen']

Suffice it to say that we won. ['Let it suffice ...']

Heaven *forbid* that I should let my own presents suffer.

Be it noted that this offer was made in good faith. 〈 formal, rather archaic 〉

Be that as it may, we have nothing to lose.

これらは格式体でやや古風だとされる。2020年1月8日のヘンリー王子夫妻の突然の王室離脱発表から数日後、女王陛下の教会を去るときに深く考え込んでいる様子を1月13日の *Metro* は (9) のような見出しをつけた。

(9) HEAVEN HELP US

「天よ、われらを助けたまえ」と内心を吐露するかの表現に仮定法現在の格式ばった形式が滑稽に響く。

3. 自動詞と他動詞

学習英文法で自動詞と他動詞の区別を学ぶ。代表的なものに *rise* と *raise*、*lie* と *lay* があり、お馴染みだろう。ここでは、2020年5月20日に *The Sun* の一面に掲載された見出しを (10) に紹介する。

(10) ARAISE SIR TOM

厳密に言えば、*ARAISE* という単語の *RAISE* の部分だけ他の白文字と区別して黄色い文字になっている。Tom とは Tom Moore 氏のことである。Moore 氏は新型コロナウイルスに奮闘する医療従事者を支援するため NHS に日本円で数十億円を寄付した100歳の退役陸軍大尉である。当初は自宅の庭を4月30日の100歳の誕生日までに歩行器をつけて100往復することで1000ポンドの寄付金を集めようとしたのだが、結果ははるかに上回り、その功績が称えられてナイトの爵位が授けられることになった。

arise は自動詞で、「起こる、～から生じる」の意味をもつ。特殊な意味として、

stood by my bedside for 48 hours when things could've gone either way.

(5) より if 節の内容は「二人の看護師のベッド横での献身的な世話がなければ」となる。すると、(4) は「二人の看護師が献身的に世話をしてくれたので、48時間もの間、生死をさまよう程の一大事にはならなくて済んだ」という事実が読み取れる。

ところで、仮定法と否定と比較が合体した (6) のような表現は英語学習者にとって非常に厄介だと言える。

(6) Things couldn't have been worse.

この文が「最悪だった」と過去のことを述べているのを理解するには、仮定法過去完了と比較の対象を踏まえて「あの時よりもっと悪い事態だったというのはあり得ないだろう」と直訳を試みるとフレーズとして覚えるよりも記憶に残ることと思われる。

2.2 仮定法現在

仮定法現在は学習英文法では「重要性や命令・提案などの内容を表す that- 節内で使われる」² 動詞の形態として記述される。典型的な例文を (7) に挙げる。

(7) My advice is that you not pay attention to the number of steps and ingredients, because they can be deceiving. (*TIME*, 2014/10/20)

補部の pay が仮定法現在であり、現代英語においては屈折が消滅し動詞の原形と同じように扱われる。この仮定法現在は他にも生産性が低く、固定された表現に限って祈願や願望を表す文でも用いられる。Quirk et al. (1985:157) の文例を (8) に挙げる。

² 高橋潔・根岸雅史 (2017) 『六訂版、基礎からの新総合英語』数研出版

王族が使用する one は、本来は I がもつ主観性が取り除かれ、謙虚さが含意されることによって広まっていったことと私には思われる。しかし、使い手が少ないために王族に限定された、いわば royal 'we' のような化石化された表現になったためにこの表現に滑稽さが生まれたのであろう。

同日の *Daily Mail* の見出しも must の使い方において学習者には勉強になる。(3) がその見出しであるが、ここでも女王の写真とともに載った。

(3) Go ... IF YOU MUST

英語学習者にとって must と have to を使用場面に合わせて適切に使いこなせるようになれば中級者の仲間入りといえよう。ここでは、ヘンリー王子夫妻の主観的判断（身勝手）で王室を離脱したいなら出ていったらいい、と女王の強い憤りが含意されることと思われる。もし、must の代わりに have to を用いていたならば「(外部の事情によって) 王室を出ていかなければならないのなら」となり、夫妻の身勝手な行動が浮き彫りにされなくなる。

2. 仮定法

2.1 仮定法過去完了

2020年3月下旬にイギリスのジョンソン首相が新型コロナウイルスに感染して入院し、4月に入って一時期は集中治療室で過ごした。首相が4月12日に退院したことを受けて、*The Daily Telegraph* の13日の見出しを(4)に紹介する。

(4) 'For 48 hours things could have gone either way for me.'

この見出しは首相の配信した動画メッセージの言葉の一部である。動画の中で首相は関与したすべての医療従事者に感謝の言葉を述べ、国民保健サービス（NHS）のスタッフに労いの言葉を送った。見出しの could have gone で仮定法が使われている。この一文は日本語では「48時間、事態は生死のいずれの方向にも進んでいただろう」となる。ここでは、if 節の省略を文脈から考える必要がある。そのためにこれより前の首相の発言を(5)に挙げる。

(5) And I hope they won't mind, if I mention in particular, two nurses who

自由投稿

続・英字新聞の見出しを味読する

長久保 礼一

はじめに

イギリスの大衆紙における見出しの言語技巧について『南窓』第58号にて紹介した。今回は主に過去1年に掲載された見出しの実例から学習英文法の奥深さを味わっていくこととする。代名詞の one、仮定法過去完了と仮定法現在、自動詞と他動詞、現在完了、時制の順に取り上げる。

1. 1 人称の代名詞 one

2020年1月8日にヘンリー王子とメーガン妃がインスタグラムで、主要な王室の地位から退いて経済的に独立することを発表してから大衆紙は連日この話題で一面をにぎわせた。2020年1月14日に *The Sun* は (1) のような見出しをつけた。

(1) ORF YOU GO ... BUT ONE IS NOT AMUSED

ORF とは、off の母音を間延びした発音で上流階級の発音を揶揄して真似たものである。BUT 以下にはエリザベス女王の写真が掲載されていることから女王の発言として理解できる。この部分の ONE に注目したい。よく知られた総称の one は we、you、they などに比べて格式体で古風であるとされる。ここでは、女王の発言であることを踏まえると 1 人称 (I) として用いられている。Quirk et al. (1985:1467)¹ には、このような one について (2) のような記述がある。

(2) There is a further and rare use of *one*, perhaps to avoid the egocentricity of I:

A: Did you enjoy your school days?

B: Well, one can hardly remember; it's all so long ago.

¹ 1 Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman

南 窓 五十九号

編集 高校 奥村元浩 中学 吉野千雲
文化委員会

題字 石田泉城

発行者 南山^{高等}中学校男子部生徒自治会

発行日 二〇二一年五月二十五日

発行所 (〒四六六一〇八三八) 名古屋市中区五軒家町六
TEL (〇五二) 八三一―六四五五

印刷 名古屋市中区千代田二―十八―十七
常川印刷株式会社

